

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	運動学演習Ⅱ
担当者	林 尚宜
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	教科書の内容にそった講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	動作分析 臨床活用講座 ～バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践～ 編著 石井慎一郎 メジカルビュー社 第14版

授業概要と目的
<p>運動学で学んだ基礎知識をもとに、臨床場面における対象者の姿勢や動作時の異常を捉える力を養う。他人の姿勢やADL動作を観察・分析することにより、その特徴や要因の仮説を立てて考察できるようになる。また、理学療法に必要な運動制御および運動学習理論についても学び、運動器系の問題だけでなく神経系や認知、感覚系も含めた、より繊細な評価が行えるようになることを目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「運動制御理論」 一般目標 ①臨床運動学に必要な運動学基礎知識について理解する ②運動制御や力学を学ぶ意義を理解する ③随意運動や姿勢・動作の制御を行うための解剖・生理学的な仕組みについて理解する ④ニュートン力学などの基礎知識をもち、動作との関連性を考察できるスキルを身につける ⑤運動制御理論について理解する	「臨床運動学の基礎知識」 「運動制御理論とは」 到達目標 ①てこ、運動の法則、モーメント、床反力、BOS、COG、COPについて説明できる ②運動制御理論とは何か、学ぶ意義を具体的に説明できる ③随意運動発現に関わる神経系のシステムについて説明できる ④フィードバック誤差学習理論、生態学的理論、反射-階層理論、システム理論についてそれぞれの特徴を説明できる	林 尚宜
2	後期	「運動学習理論」 一般目標 ①運動学習について学ぶ意義を理解する ②運動学習の段階（認知、連合、自動化）について理解する	「運動学習理論とは」 到達目標 ①運動学習理論とは何か、学ぶ意義を具体的に説明できる ②学習に関わる神経系のシステムについて説明できる	林 尚宜

		③運動学習理論と学習に関する神経科学モデルについて理解する	③閉ループ理論、スキーマ理論、強化学習モデル、教師なし学習モデル、教師あり学習モデルについてそれぞれの特徴を説明できる	
3	後期	<p>「姿勢制御とバランス」</p> <p>一般目標</p> <p>①無意識下でも姿勢や動作を制御できる仕組みについて理解する</p> <p>②外乱時の姿勢応答について理解する</p> <p>③バランスという言葉の意味を理解する</p>	<p>「姿勢制御ストラテジー」</p> <p>「先行随伴性姿勢調節（APA）」</p> <p>「バランスとは」</p> <p>到達目標</p> <p>①足関節ストラテジー、股関節ストラテジー、ステップングストラテジーについてそれぞれの特徴を説明できる</p> <p>②APAはどのような時に出現するのか。また、出現しない場面とはどのような環境か説明できる</p> <p>③バランスを考える上でのポイントや注意点、曖昧な点は何か説明できる</p>	林 尚宜
4	後期	<p>「直接目で見る動作観察・分析」</p> <p>一般目標</p> <p>①理学療法において動作や運動を分析する目的を理解する</p> <p>②理学療法における動作分析の位置づけを理解する</p> <p>③正常運動からの逸脱運動と代償運動について理解する</p> <p>④動作障害の原因を推論するためには何が必要か、理解する</p>	<p>「クラインフォーゲルバッハの運動学」</p> <p>「臨床における動作分析」</p> <p>到達目標</p> <p>①臨床における動作分析の目的を説明できる</p> <p>②CW、CA、CMについて理解し、分析方法の特徴を説明できる</p> <p>③逸脱運動と代償運動について説明できる</p> <p>④動作の着目点を明確にし、仮説の立案と検証ができる</p>	林 尚宜
5	後期	<p>「寝返り、起き上がり動作の観察・分析」</p> <p>一般目標</p> <p>①寝返り、起き上がり動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②寝返り、起き上がり動作の観察・分析における主な着目点を理解する</p> <p>③起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p>	<p>「寝返り、起き上がり動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常な寝返り、起き上がり動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>②各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>③寝返り、起き上がり動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p>	林 尚宜

6	後期	<p>「寝返り、起き上がり動作の観察・分析（演習）」</p> <p>一般目標</p> <p>①寝返り、起き上がり動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「寝返り、起き上がり動作の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した寝返り、起き上がり動作の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③寝返り、起き上がり動作について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p>	林 尚宜
7	後期	<p>「起立動作の観察・分析」</p> <p>一般目標</p> <p>①起立動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②起立動作の観察・分析の主な着目点を理解する</p> <p>③起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p>	<p>「起立動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常な起立動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>②各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>③起立動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p>	林 尚宜
8	後期	<p>「起立動作の観察・分析（演習）」</p> <p>一般目標</p> <p>①起立動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「起立動作の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した起立動作の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③起立動作について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p>	林 尚宜
9	後期	<p>「歩行の観察・分析 1」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②歩行動作の観察・分析の主な着目点を理解する</p> <p>③身体重心を前方へ移動させる推進力を作り出す、3つの rocker 機能について理解する</p> <p>④歩行周期における各相の特徴を理解する</p>	<p>「歩行動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①歩行動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p> <p>②Heel rocker、Ankle rocker、Forefoot rocker の役割、相、中心となる部位について説明できる</p> <p>③歩行周期における各相の名称とその役割について説明できる</p>	林 尚宜

10	後期	<p>「歩行の観察・分析2」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②歩行動作の観察・分析の主な着目点を理解する</p> <p>③身体重心を前方へ移動させる推進力を作り出す、3つの rocker 機能について理解する</p> <p>④歩行周期における各相の特徴を理解する</p>	<p>「歩行動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常な歩行動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>②各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>③歩行を運動力学的にとらえることができる</p>	林 尚宜
11	後期	<p>「異常歩行の観察・分析」</p> <p>一般目標</p> <p>①異常歩行と障害像、その特徴について理解する</p> <p>②様々な疾病や病態別に起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p> <p>③異常歩行の実用性について理解する</p>	<p>「異常歩行の原因」</p> <p>到達目標</p> <p>①各異常歩行を生じる原因、理由について説明できる</p> <p>②中枢神経障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>③末梢神経障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>④運動器障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>⑤各異常歩行を模倣することができる</p>	林 尚宜
12	後期	<p>「異常歩行の観察・分析（演習）」</p> <p>一般目標</p> <p>①各異常歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p>	<p>「異常歩行の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した異常歩行の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③異常歩行について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p> <p>④異常歩行の観察・分析が一人で行える</p>	林 尚宜
13	後期	<p>「異常歩行の観察・分析（演習）」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「異常歩行の観察・分析の確認」</p> <p>到達目標</p> <p>①各異常歩行の観察・分析ポイントについて資料を見ずに説明することができる</p> <p>②各異常歩行の観察・分析について、資料を見ずに一人で実践できる</p>	林 尚宜

14	後期	「異常歩行の観察・分析（演習）」 一般目標 ①歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する ②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する ③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める	「異常歩行の観察・分析の確認」 到達目標 ①各異常歩行の観察・分析ポイントについて資料を見ずに説明することができる ②各異常歩行の観察・分析について、資料を見ずに一人で実践できる	林 尚宜
15	後期	「動作分析システム」 一般目標 ①動作分析システムについて理解する ②機器による運動機能評価 「BIODEX」について理解する ③機器による歩行機能評価 「VICON」について理解する	「BIODEX」 「VICON」 到達目標 ①等速性収縮について説明できる ②「BIODEX」について、目的と使用方法、測定結果の解釈を説明できる ③「VICON」について、目的と使用方法、測定結果の解釈を説明できる	林 尚宜
成績評価方法	期末試験（70%） グループワーク課題（30%：内容、文字数、構成、見栄えで採点） 授業態度が芳しくない場合は減点			
準備学習など	基礎運動学で学んだ基礎知識（特に生体力学、姿勢や動作、運動学習）を予習しておくこと グループワークにて積極的に発言し、討論すること			
留意事項	特になし			

学科・年次	理学療法科 2年生
科目名	薬理学
担当者	平松 礼司
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 医歯薬出版（テキスト） 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版（サブテキスト）

授業概要と目的				
<p>医療従事者として医薬品に対する基礎的な薬理学及びそれを応用した臨床薬理学の知識を習得し、理学療法士の医療に役立たせることを目的とする。患者が服用している薬が、リハビリテーションにどのような影響を与えるか理解でき、また来年度以降に理学療法士国家試験に正式に追加される薬理学についても十分に対応できるような講義を行う。</p> <p>なお、薬剤師としての資格を持ち、且つ愛知県の衛生研究所、保健所勤務の経歴を持つ講師が担当する。</p>				

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	理学療法士が必要とする薬に対する全般的な基礎を理解する。	薬の基本的な知識を述べるができる。	平松 礼司
2	後期	薬が疾患の治療に使える意義について理解する。	薬が疾患治療に使える意義とリハビリテーションに与える影響を述べるができる。	平松 礼司
3	後期	薬を理解するための基礎知識を理解する。	薬の由来、受容体、代謝、薬の分類を述べるができる。	平松 礼司
4	後期	薬の概念と分類について理解する。	薬の作用機序と生理活性物質を述べるができる。医療用医薬品と一般用医薬品の違いを述べることができる。	平松 礼司
5	後期	薬の作用について理解する。	薬物の副作用と有害作用を述べることができる。	平松 礼司
6	後期	生体内での薬の作用について理解する。	薬物の生体内運命（吸収、代謝、分布、排泄）について述べるができる。	平松 礼司
7	後期	薬の作用に影響を与える因子について理解する。	薬の作用の強弱、加齢の影響、相互作用について述べるができる。	平松 礼司
8	後期	薬の使い方について理解する。	剤形、投与経路による吸収、作用の相違、リスクマネジメントを述べることができる。	平松 礼司
9	後期	感染・炎症の制御と薬物療法について理解する。	感染と炎症の病態とその治療の作用機序、抗炎症薬について述べることができる。	平松 礼司
10	後期	神経疾患の薬物療法について理解する。	神経疾患の発症機序と治療薬、その運動機能障害と服薬指導を述べることができる。	平松 礼司

11	後期	精神疾患の薬物療法を理解する。	精神疾患の発症機序と治療薬、その有害作用、精神障害を述べることができる。	平松 礼司
12	後期	循環器系疾患の薬物療法について理解する。	循環器系疾患の発症機序と治療薬、その有害作用を述べることができる。	平松 礼司
13	後期	疼痛の制御と薬物療法について理解する。	痛みの種類と痛覚と治療薬、及び発症機序について述べるができる。	平松 礼司
14	後期	注意すべき頻用される薬物を理解する。	代謝性疾患治療薬、血液凝固抑制治療薬、催眠薬とそれらの有害作用を述べることができる。	平松 礼司
15	後期	まとめ、要点	まとめ、期末試験の対策	平松 礼司
成績評価方法		モデルコアカリキュラムに準じた定期試験を実施し評価する。		
準備学習（授業時間外に必要な学修内容）		これまでの授業内容を復習し、国家試験出題基準にそつての学習を事前に行っておくこと。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2 年次
科目名	神経内科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学（医学書院）、メディカルスタッフのための神経内科学（医歯薬出版株式会社）、内科学（朝倉書店）参照

授業概要と目的
<p>神経内科疾患の全体像を把握し、中枢神経疾患・末梢神経疾患・筋疾患等を中心に理解を深め、その知識を身につける。</p> <p>なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経疾患とは」 一般目標 ① 神経疾患について理解する。	「神経疾患とは」 到達目標 ① 神経疾患の総論・全体像を把握する。 ② 神経疾患の症候について理解・説明できる。	益田 健史
2	前期	「脳血管障害」 一般目標 ① 一過性脳虚血発作について理解する。	「脳血管障害について」 到達目標 ① 脳血管障害の分類ができる。 ② 一過性脳虚血発作を理解・説明できる。 ③ クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞などを理解・説明できる。 ④ その他、外傷性の硬膜外血腫や硬膜下血腫などの頭部の出血について理解・説明できる。	益田 健史
3	前期	② 脳卒中について理解する。 (脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血)		
4	前期	③ その他頭部の出血について理解する。 (硬膜下血腫、硬膜外血腫)		
5	前期	「変性疾患」 一般目標 ① 運動ニューロン疾患について理解する。 (筋萎縮性側索硬化症)	「変性疾患について」 到達目標 ① 変性疾患を理解・説明できる。 ② 筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患を理解・説明できる。 ③ パーキンソン病などの錐体外路系変性疾患を理解・説明できる。 ④ Alzheimer 病などの認知症関連の変性疾患を理解・説明できる。 ⑤ 脊髄小脳変性症を理解・説明できる。	益田 健史
6	前期	② 錐体外路の変性疾患について理解する。 (パーキンソン病、パーキンソン症候群)		
7	前期	③ 認知症関連の変性疾患について理解する。 (Alzheimer 病、Lewy 小体型認知症、前頭側頭葉認知症(ピック病))		
		④ 脊髄小脳変性症について理解する。		
8	前期	「脱髄疾患」 一般目標 ① 多発性硬化症について理解する。	「脱髄疾患について」 到達目標 ① 多発性硬化症などの脱髄性疾患を理解・説明できる。	益田 健史

9	前期	「筋肉疾患」 一般目標 ① 重症筋無力症について理解する。 ② 筋ジストロフィーについて理解する。	「筋肉疾患について」 到達目標 ① 重症筋無力症・筋ジストロフィーなどの疾患を理解・説明できる。	益田 健史
10	前期	「末梢神経疾患」 一般目標 ① ギランバレー症候群について理解する。	「末梢神経疾患について」 到達目標 ① ギランバレー症候群などの末梢神経疾患を理解・説明できる。	益田 健史
11	前期	「感染症疾患」 一般目標 ① 髄膜炎について理解する。	「感染症疾患について」 到達目標 ① 髄膜炎・脳炎・脳症の違いと特徴を理解できる。	益田 健史
12	前期	② 脳炎、脳症について理解する。		
13	前期	「腫瘍性疾患」 一般目標 ① 腫瘍性疾患について理解する。	「腫瘍性疾患について」 到達目標 ① 脳腫瘍の発生由来とその特徴について理解・説明できる。	益田 健史
14	前期	「てんかん」 一般目標 ① てんかんについて理解する。	「てんかんについて」 到達目標 ① 2017年に大幅改定された病型分類を中心にてんかんに対する理解を深める。	益田 健史
15	前期	「その他疾患類」 一般目標 ① 高次機能障害について理解する。	「その他疾患類について」 到達目標 ① その他疾患類の理解を深める。 ② 高次機能障害について理解できる。	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	整形外科学
担当者	矢崎 進
単位数（時間数）	2単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：整形外科学テキスト（改訂第4版） 南江堂 参考書：標準整形外科学（改訂第14版） 医学書院

授業概要と目的
<p>整形外科疾患について理解を深め、チーム医療の一員としてリハビリテーションを担う理学療法士の実践に寄与することを目的とする。</p> <p>なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	①整形外科について 整形外科学的診断法 整形外科的治療法 ②軟部組織損傷	①整形外科とは、整形外科の歴史 診察の基本、検査法、画像診断、保存療法、 手術療法の特徴を学ぶ ②皮膚損傷、筋・腱損傷、血管損傷、デブ リドマン、圧挫症候群、熱傷の特徴を学び 治療法を知る	矢崎 進
2	後期	①骨・関節の損傷総論 ②肩関節および上腕の外傷と疾患 1	①骨・軟骨の構造と機能、骨折、脱臼、捻 挫の特徴を学び治療法を知る ②肩関節の解剖・バイオメカニクス、肩関 節および上腕の外傷、肩関節不安定症の特 徴を学び治療法を知る	矢崎 進
3	後期	①肩関節および上腕の外傷と疾患 2 ②肘関節および前腕の外傷と疾患 ③骨盤の外傷と疾患	①肩関節の変性疾患、肩関節のスポーツ障 害の特徴を学び治療法を知る ②肘関節と前腕の特徴を学び、生じやすい 病態およびこれに対する治療法を知る ③骨盤の特徴を学び、生じやすい病態およ びこれに対する治療法を知る	矢崎 進
4	後期	①手関節と手指の外傷と疾患 ②股関節および大腿の外傷と疾患 1	①手の特徴を学び、生じやすい病態および これに対する治療法を知る	矢崎 進

			②股関節と大腿の構造と機能、外傷および発育性股関節形成不全の特徴を学び治療法を知る	
5	後期	①股関節および大腿の外傷と疾患2 ②膝関節および下腿の外傷と疾患1	①股関節と大腿の疾患の特徴を学び、生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る ②膝関節と下腿の特徴を学び、生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る	矢崎 進
6	後期	①膝関節および下腿の外傷と疾患2 ②足関節と足部の外傷と疾患	①膝関節と下腿の特徴を学び、生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る ②足関節と足部の特徴を学び、生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る	矢崎 進
7	後期	①脊椎・脊髄の外傷と疾患1 ②脊椎・脊髄の外傷と疾患2	①脊椎・脊髄の構造と機能、外傷の特徴を学び治療法を知る ②脊髄損傷の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
8	後期	①脊椎・脊髄の外傷と疾患3	①脊椎・脊髄の疾病の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
9	後期	①慢性関節疾患 ②リウマチとその類縁疾患1	①関節の構造と機能、骨関節の病的変化、変形性関節症、痛風、血友病性関節症の特徴を学び治療法を知る ②関節リウマチの特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
10	後期	①リウマチとその類縁疾患2 ②感染症 ③代謝・内分泌疾患 ④ロコモティブシンドロームと運動器不安定症	①悪性関節リウマチ、強直性脊椎炎、若年性特発性関節炎の特徴を学び治療法を知る ②化膿性骨髄炎、化膿性関節炎、骨・関節結核、嫌気性感染症の特徴を学び治療法を知る ③骨軟化症、くる病、骨粗鬆症、上皮小体機能異常、甲状腺機能異常、巨人症、末端肥大症の特徴を学び治療法を知る ④概念と定義、評価法、対策を知る	矢崎 進
11	後期	①骨・軟部腫瘍 ②神経疾患・筋疾患1	①良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍、良性軟部腫瘍、悪性骨腫瘍の特徴を学び治療法を知る ②末梢神経の機能と構造、末梢神経の診察法と検査、末梢神経損傷の治療を知る 上肢の末梢神経損傷の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進

12	後期	①神経疾患・筋疾患 2	①下肢の末梢神経損傷，絞扼性神経障害，特殊な外傷、脳性麻痺の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
13	後期	①神経疾患・筋疾患 3 ②骨系統疾患 ③骨壊死疾患および骨端症	①筋ジストロフィーの特徴を学び治療法を知る ②骨形成不全症，軟骨無形成症，脊椎・骨端異形成症，大理石骨病，神経線維腫症，マルファン症候群の特徴を学び治療法を知る ③無腐性壊死症，骨端症の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
14	後期	①四肢循環循環障害 ②四肢切断および四肢欠損 1 ③四肢切断および四肢欠損 2	①閉塞性動脈硬化症，閉塞性血栓血管炎，レイノー症候群，深部静脈血栓症，下肢静脈瘤，リンパ浮腫の特徴を学び治療法を知る ②切断の定義，切断部位，切断の原因を知る ③切断術，断端合併症，義肢・リハビリテーションを知る	矢崎 進
15	後期	①慢性疼痛疾患 ②スポーツ整形外科 ③障がい者スポーツ	①疼痛の種類とメカニズム，慢性疼痛疾患の特徴を学び治療法を知る ②スポーツ障害と外傷の特徴を学び、生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る ③障がい者スポーツの意義，歴史，効果を知る	矢崎 進
成績評価方法		筆記試験 100 点		
準備学習など				
留意点				

学科・年次	理学療法科 2 年次
科目名	精神医学
担当者	益田 健史
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：現代臨床精神医学 12 版 (金原出版)、精神医学 (理工図書) はじめての精神医学 2 版 (中山書店)、(南江堂) 参照

授業概要と目的
精神科疾患の基礎を理解し、その知識を身につける。 なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「精神医学の歴史」 一般目標 ① 精神医学の歴史を理解する。 ② 神経機能の生理学を理解する。 ③ 精神障害の定義・分類を理解する。	「精神医学の歴史について」 到達目標 ① 精神医学の歴史や成り立ちを説明できる。 ② 神経機能の生理学を説明できる。 ③ 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について説明できる。	益田 健史
2	後期	「精神医学概論」 一般目標 ① 神経機能の生理学を理解する。 ② 精神障害の定義・分類を理解する。	「精神医学概論について」 到達目標 ① 神経機能の生理学を説明できる。 ② 精神障害の定義・分類を説明できる。 ③ 精神医学の世界で使われている ICD 分類、DSM 分類、古典的 3 分類について説明できる。	益田 健史
3	後期	「心因性精神障害」 一般目標 ① 不安症群を理解する。 ② ストレス関連疾患を理解する。	「心因性精神障害について」 到達目標 ① 神経症性障害に含まれる限局性恐怖症、パニック障害などの不安症群について説明できる。	益田 健史

4	後期	③ 解離性障害を理解する。 ④ 摂食障害を理解する。	② ストレス関連疾患（PTSD）、解離性障害について説明できる。	益田 健史
5	後期		「心因性精神障害について」 到達目標 ① 神経性食思不振症、神経性過食症などの摂食障害とその危険性について説明できる。	益田 健史
6	後期	「内因性精神障害」 一般目標 ① 統合失調症を理解する。	「内因性精神障害について」 到達目標 ① 統合失調症の古典的概念を説明できる。 ② 原因（ドーパミン仮説など）、疫学、典型的症状（陽性・陰性症状）を説明できる。	益田 健史
7	後期		「内因性精神障害について」 到達目標 ① 統合失調症の病型分類（妄想型・破瓜型・緊張型）、治療、予後を説明できる。	益田 健史
8	後期	「内因性精神障害」 一般目標 ① 気分障害を理解する。	「内因性精神障害について」 到達目標 ① 双極性障害及び単極型うつ病の病態・違いを説明できる。	益田 健史
9	後期	「外因性精神障害」 一般目標 ① 器質性精神障害を理解する。 ② 症状性精神障害を理解する。	「外因性精神障害について」 到達目標 ① 因性精神障害に含まれる器質性精神障害及び症状性精神障害について説明できる。	益田 健史
10	後期	「器質性精神障害と認知症」 一般目標 ① アルツハイマー型認知症及び脳血管性認知症を理解する。 ② その他の認知症（Lewy 小体認知症、pick 病）などを理解する。	「器質性精神障害と認知症について」 到達目標 ① アルツハイマー型認知症及び脳血管性認知症を説明できる。 ② その他の認知症（Lewy 小体型認知症、Pick 病）などを説明できる。	益田 健史
11	後期	「症状性精神障害」 一般目標 ① 脳損傷を伴わない身体疾患による二次的な精神障害について理解する。	「症状性精神障害について」 到達目標 ① 脳損傷を伴わない身体疾患による二次的な精神障害について説明できる。	益田 健史

12	後期	「物質依存」 一般目標 ① 物質依存の3要素（精神・身体・耐性）、アルコール依存症について理解する。 ② その他薬物の依存症について理解する。	「物質依存について」 到達目標 ① 物質依存の3要素（精神・身体・耐性）、アルコール依存症について説明できる。 ② その他薬物の依存症について説明できる。	益田 健史
13	後期	「てんかん」 一般目標 ① 2017年に大幅改定されたてんかんの病型分類を中心にてんかんにより生じる精神症状を理解する。	「てんかんについて」 到達目標 ① 2017年に大幅改定されたてんかんの病型分類を中心にてんかんにより生じる精神症状を説明できる。	益田 健史
14	後期	「パーソナリティ障害」 一般目標 ① パーソナリティ障害の分類、特徴を理解する。	「パーソナリティ障害」 到達目標 ① パーソナリティ障害の分類、特徴を説明できる。	益田 健史
15	後期	「まとめ」	「まとめ」 到達目標 ① ここまでの知識の統合整理ができる。	益田 健史
成績評価方法	科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。			
準備学習など	プリントの復習。			
留意事項	授業で配布したプリントをファイルして保存する事。			

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	多職種連携論
担当者	櫻井 泰弘
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義，グループワーク
教科書・参考書	リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 医歯薬出版株式会社 医療福祉をつなぐ関連職種連携 南江堂 はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門 協同医書出版社 多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル 医学書院

授業概要と目的	
<p>保健・医療・福祉の統合が進む社会状況において、専門的立場からのサービス提供とともに各職種が連携・協働し総合的支援をすることが求められている。他職種の専門性の理解と職務の関連性や連携の在り方の理解が必須である。基礎的な理解をした上で、事例や状況にあった多職種連携や協働のあり方を学ぶ。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「多職種連携論を学ぶ必要性」</p> <p>一般目標</p> <p>① 多職種連携論について理解する。</p> <p>② リハ専門職の専門性について理解する。</p> <p>③ 医療領域の職種について理解する。</p> <p>④ 保健福祉領域、地域の職種について理解する。</p>	<p>「多職種連携の概要」</p> <p>到達目標</p> <p>① 多職種連携論を学ぶ必要性について説明できるようになる。</p> <p>② リハ専門職の専門性について説明できるようになる。</p> <p>③ 医療領域の職種について説明できるようになる。</p> <p>④ 保健福祉領域、地域の職種について説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
2	前期	<p>「多職種連携が求められる背景」</p> <p>一般目標</p> <p>① 多職種連携とチーム医療について理解する。</p> <p>② マネジメントについて理解する。</p> <p>③ マネジメントとリーダーシップの違いについて理解する。</p>	<p>「多職種連携に必要なスキル」</p> <p>到達目標</p> <p>① 多職種連携とチーム医療について説明できるようになる。</p> <p>② マネジメントをするために必要な能力・スキルについて説明できるようになる。</p> <p>③ チームマネジメントの概要について説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
3	前期	<p>「多職種連携教育」</p> <p>一般目標</p> <p>① 専門職教育について理解する。</p> <p>② 多職種連携教育の概要について理解する。</p> <p>③ 心理的安全性について理解する。</p>	<p>「多職種連携のための知識」</p> <p>到達目標</p> <p>① 専門職教育について説明できるようになる。</p> <p>② 多職種連携教育の概要について説明できるようになる。</p> <p>③ 多職種連携における心理的安全性について説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
4	前期	<p>「リハ専門職と他職種」</p> <p>一般目標</p>	<p>「他職種の理解」</p> <p>到達目標</p>	櫻井泰弘

		<ul style="list-style-type: none"> ① 専門職の歴史について理解できる. ② 理学療法士の役割について理解する. ③ 理学療法士の以外のリハ専門職の役割について理解する. ④ リハ専門職以外の他職種の役割について理解する. 	<ul style="list-style-type: none"> ① 理学療法士の業務、役割について説明できるようになる. ② 理学療法士以外のリハ専門職の業務、役割について説明できるようになる. ③ リハ専門職以外の他職種の役割について説明できるようになる. 	
5	前期	<p>「多職種連携に必要なコミュニケーション」</p> <p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションの本質について理解する. ② コミュニケーションの構成要素について理解する. ③ コミュニケーションによる情報共有と意思確認・決定について理解する. 	<p>「多職種連携におけるコミュニケーション実際」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 演習問題を通して理学療法士と看護師における連携に必要なコミュニケーションについて説明できるようになる. ② 演習問題を通して理学療法士と医師における連携に必要なコミュニケーションについて説明できるようになる. 	櫻井泰弘
6	前期	<p>「リーダーシップ」</p> <p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リーダーシップの概要について理解できる. ② リーダーシップに必要な 5 つの要素を理解する. ③ PM 理論について理解する. 	<p>「リーダーシップの実際」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リーダーシップとフォロアーシップの違いについて説明できるようになる. ② 演習問題を通して、リーダーシップに必要な 5 つの要素を説明できるようになる. 	櫻井泰弘
7	前期	<p>「チームアプローチ①」</p> <p>一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チームアプローチの概要について理解する. ② チームとグループの違いについて理解する. ③ チームビルディングについて理解する. ④ 情報共有ツールについて理解する. 	<p>「チームアプローチの実際」</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 演習問題を通してチームビルディングの必要性について説明できるようになる. ② 演習問題を通して適切な情報共有方法について説明できるようになる. ③ 演習問題を通して情報共有の妨げとなる問題について説明できるようになる. 	櫻井泰弘

8	前期	<p>「チームアプローチ②」</p> <p>一般目標</p> <p>① ファシリテーションの概要について理解する.</p> <p>② ファシリテーターの役割について理解する.</p> <p>③ ファシリテーターに必要な4つの要素について理解する.</p> <p>④ コンフリクトについて理解する.</p>	<p>「チームアプローチの課題と対応」</p> <p>到達目標</p> <p>① ファシリテーターの役割について説明できるようになる.</p> <p>② ファシリテーターに必要な4つの要素について説明できるようになる.</p> <p>③ コンフリクトマネジメントについて理解し, 説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
9	前期	<p>「多職種連携の実際①」</p> <p>一般目標</p> <p>① 急性期について理解する.</p> <p>② 急性期における関連職種について理解する.</p> <p>③ 急性期における他職種の連携について理解する.</p>	<p>「急性期における多職種連携の実際」</p> <p>到達目標</p> <p>① 急性期におけるリスク管理について理解し, 説明できるようになる.</p> <p>② 急性期における他職種との連携を理解し, 説明できるようになる.</p> <p>③ 急性期における目標達成の具体的展開について理解し, 説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
10	前期	<p>「多職種連携の実際②」</p> <p>一般目標</p> <p>① 回復期について理解する.</p> <p>② 回復期における関連職種について理解する.</p> <p>③ 回復期に他職種の連携について理解する.</p>	<p>「回復期における多職種連携の実際」</p> <p>到達目標</p> <p>① 回復期の特徴を理解し, 関連職種との連携方法を説明できるようになる.</p> <p>② 回復期におけるチーム医療について説明できるようになる.</p> <p>③ 回復期における目標達成の具体的展開について理解し, 説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
11	前期	<p>「多職種連携の実際③」</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活期について理解する.</p> <p>② 介護老人保健施設について理解する.</p> <p>③ 介護老人保健施設における関連職種について理解する.</p>	<p>「生活期における多職種連携①」</p> <p>到達目標</p> <p>① 介護老人保健施設に他職種との連携を理解し, 説明できるようになる.</p> <p>② 介護老人保健施設における目標達成の具体的展開について理解し, 説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘

12	前期	<p>「多職種連携の実際④」</p> <p>一般目標</p> <p>① 通所リハビリテーションについて理解する。</p> <p>② 通所リハビリテーションにおける関連職種について理解する。</p> <p>③ 訪問リハビリテーションについて理解する。</p> <p>④ 訪問リハビリテーションにおける関連職種について理解する。</p>	<p>「生活期における多職種連携②」</p> <p>到達目標</p> <p>① 通所リハビリテーションにおける他職種との連携を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 通所リハビリテーションにおける目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③ 訪問リハビリテーションにおける他職種との連携を理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 訪問リハビリテーションにおける目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
13	前期	<p>「多職種連携の実際⑤」</p> <p>一般目標</p> <p>① カンファレンスについて理解する。</p> <p>② サービス担当者会議について理解する。</p> <p>③ リハビリテーション会議について理解する。</p>	<p>「各病期における具体的介入」</p> <p>到達目標</p> <p>① 各病期において開催されるカンファレンスについて説明できるようになる。</p> <p>② カンファレンスの進め方について説明できるようになる。</p> <p>③ 各病期における連携や情報共有について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
14	前期	<p>「ケーススタディ①」</p> <p>一般目標</p> <p>① ケースの内容を理解する。</p> <p>② ケースにおける問題点を理解する。</p>	<p>「多職種連携の実際①」</p> <p>到達目標</p> <p>① ケース内の分からない用語をグループ内で理解し説明できるようになる。</p> <p>② ケース内の問題点をグループ内で説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
15	前期	<p>「ケーススタディ②」</p> <p>一般目標</p> <p>① ケースの内容を理解する。</p> <p>② ケースにおける問題点を理解する。</p>	<p>「多職種連携の実際②」</p> <p>到達目標</p> <p>① ケースで起きている問題点についてグループ内で討議ができるようになる。</p> <p>② 討議した内容をグループ内で発表できるようになる。</p>	櫻井泰弘
成績評価方法		出席、授業態度、グループワークでの発言頻度・参加態度、レポート		
準備学習など		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年
科目名	社会保障制度論
担当者	葛谷桂司
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 中央法規 社会保障入門 中央法規 社会保障の手引

授業概要と目的
<p>職業リハビリテーション（就労支援）の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度 2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度 3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では医療機関、福祉施設等の専門職として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより 1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。 2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。 3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。 4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 社会保障入門目次 「総論Ⅰ、Ⅱ」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。</p>	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会保険制度の種類を挙げることができる。 ② 現代の国民生活と日本の社会保障制度の歴史を説明できる。 ③ 少子高齢化の進む日本社会で地域社会の在り方、労働の形態の変化を説明できる。 ④ 社会保障制度の変化を説明できる。 ⑤ 新しく設立された省庁と法の内容を説明できる。 ⑥ 社会福祉制度における支援の種類を挙げることができる。 	葛谷桂司

			⑦ 諸外国の社会保障の現状を説明できる。	
2	後期	「医療保険制度」 社会保障入門目次 各論Ⅱ「保健医療」 一般目標 ① 医療保険制度の仕組みを理解する。 ② 医療保険制度の種類を理解する。	「医療保険制度」 到達目標 ① 健康保険制度の加入要件について説明できる。 ② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。 ③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。 ④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。 ⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。	葛谷桂司
3	後期	「年金制度」 社会保障入門 目次 各論Ⅲ 「年金・労働保険」 一般目標 ① 年金制度の仕組みを理解する。 ② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。	「年金制度」 到達目標 ① 年金制度の目的を説明できる。 ② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。 ③ 年金の受給資格について説明できる。 ④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。	葛谷桂司
4	後期	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」社会保障入門 目次 「各論Ⅲ 年金・労働保険」 一般目標 ① 雇用保険制度の目的を理解する。 ② 雇用保険制度の内容を理解する。 ③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。 ④ 労働者災害補償保険の内容を理解する。	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 到達目標 ① 雇用保険制度の目的を説明できる。 ② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。 ③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。 ④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。 ⑥ 認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。	葛谷桂司
5	後期	「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ	「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 到達目標	葛谷桂司

		<p>「社会保障入門」 総論⑨～⑭各論社会福祉 「社会保障の手引」 目次 「児童の福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。</p> <p>② 子ども・子育て支援制度の概要を理解する。</p>	<p>① 児童福祉法の目的を説明できる。</p> <p>② 児童の種類を挙げることができる。</p> <p>③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。</p> <p>④ 社会的養護の内容を説明できる。</p> <p>⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。</p> <p>⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げることができる。</p>	
6	後期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ</p> <p>「社会保障入門」 目次 社会福祉各論 ⑯⑰⑱ 「社会保障の手引」 「母子及び父子並びに寡婦の福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。</p> <p>③家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ</p> <p>到達目標</p> <p>① 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。</p> <p>② ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。</p> <p>③ 児童手当等の経済支援を挙げることができる。</p>	葛谷桂司
7	後期	<p>「母子保健制度」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑮</p> <p>「社会保障の手引」 母子保健</p> <p>一般目標</p> <p>①母子保健法の目的を理解する。</p> <p>②生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保</p>	<p>「母子保健制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。</p> <p>② 訪問指導の内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

		<p>健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。</p> <p>乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>③ 妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。</p> <p>④ 未熟児の基準を説明できる。</p> <p>⑤ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。</p> <p>⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。</p> <p>⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。</p> <p>⑧ B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。</p> <p>マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>	
8	後期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」「社会保障入門」目次各論社会福祉①～③「社会保障の手引」生活保護、生活困窮者等の支援</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活保護制度の法的根拠を理解する。</p> <p>② 生活保護制度の内容を理解する。</p> <p>③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。</p> <p>④ 婦人保護事業の内容を理解する。</p> <p>災害救助法の内容を理解する。</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」到達目標</p> <p>① 生活保護法の法的根拠を説明できる。</p> <p>② 最低生活保障と自立助長を説明できる。</p> <p>③ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>④ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。</p> <p>⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。</p> <p>⑦ 被保護者の責務を説明できる。</p> <p>⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。</p> <p>⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。</p> <p>⑩ 生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。</p> <p>⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。 ⑭ 災害救助法の目的を説明できる。 ⑮ 災害救助の種類を説明できる。 ⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。 ⑰ 日本赤十字社の役割を説明できる。 	
9	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の内容を理解する。 ② 障害者差別に関する規定を理解する。 ③ 障害の法規定を理解する。 ④ 障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。 ⑤ 障害児の保健福祉について理解する。 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の概要を説明できる。 ② 差別禁止に関する内容を説明できる。 ③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。 ④ 障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。 ⑤ 身体障害者更生相談所の業務を説明できる。 ⑥ 知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。 ⑦ 精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。 ⑧ 児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。 <p>障害児施設の種類を説明できる。</p>	葛谷桂司
10	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の内容を理解する。 ② 障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。 ② 障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。 ③ 障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。 ④ 障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。 ⑤ 障害者虐待の内容を説明できる。 	葛谷桂司

		③ 障害者虐待の問題を理解する。		
11	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <p>① 発達障害者支援法の内容を理解する。 ② 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要、詳細を理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」 到達目標</p> <p>① 発達障害者支援法の主旨を説明できる。 ① 発達障害の定義を説明できる。 ② 発達障害者支援法の基本理念を説明できる。 ③ 発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。 ④ 発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。 ⑤ 発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。 ⑥ 発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。 ⑦ 医療的ケア児と医療的ケアの説明ができる。 ⑧ 医療的ケア児とその家族に対する国、公共団体、保育所、学校の義務を説明できる ⑨ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する施策を説明できる。</p>	葛谷桂司
12	後期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧</p> <p>「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標</p> <p>① 高齢者福祉の歴史の概要を理解する。 ② 介護保険の概要を理解する。 ③ 介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する ④ 高齢者の権利擁護について理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 到達目標</p> <p>① 現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。 ② 介護保険法創設について説明できる。 ③ 介護保険法の目的を説明できる。 ④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。 ⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。 ⑥ 保険事故について説明できる。 ⑦ 要介護状態、要支援状態認定について説明できる。 ⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。</p>	葛谷桂司

		⑤ 高齢者の虐待とその防止について理解する。	⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。 ⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。 ⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。 ⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 高齢者虐待について説明できる。 ⑭ 高齢者虐待の種類、法的措置を説明できる。 ⑮ 介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類の種類、内容を説明できる。	
13	後期	「高齢者の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 介護予防の内容を理解する。 ② 介護予防サービスの種類を理解する。 ③ 訪問型サービスの内容を理解する。 ④ 通所型サービスの内容を理解する。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を理解する。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を理解する。	「高齢者の保健福祉Ⅱ」 到達目標 ① 介護予防の目的を説明できる。 ② 介護予防サービスの種類を説明できる。 ③ 訪問型サービスの内容を説明できる。 ④ 通所型サービスの内容を説明できる。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を説明できる。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。	葛谷桂司
14	後期	「高齢者の保健福祉Ⅲ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 認知症施策の内容を理解する。	「高齢者の保健福祉Ⅲ」 到達目標 ① 認知症施策の流れを説明できる。 ② 新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。 ③ 新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。	葛谷桂司

		<p>② 新オレンジプランの内容を理解する。</p> <p>③ 共生型サービスの内容を理解する。</p>	<p>④ 共生型サービスの創設の目的、介護保険サービスと障害者総合支援法との関連を説明できる。</p>	
15	後期	<p>「特殊疾病対策」</p> <p>「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療⑩～⑭</p> <p>「社会保障の手引」「特殊疾病対策」</p> <p>一般目標</p> <p>① 地域保健活動で役割を担っている保健士の活動内容を理解する。</p> <p>① 日本国内で発生する感染症対策の理解をする。</p> <p>② 難病患者・その家族に対する支援について理解する。</p> <p>③ 特殊疾病対策における行政の責務を理解する。</p>	<p>「特殊疾病対策」</p> <p>到達目標</p> <p>① 保健士の活動内容を説明できる。</p> <p>① 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の目的を説明できる。</p> <p>② 感染症の種類を説明できる。</p> <p>③ 予防対策に関して、行政の責務を説明できる。</p> <p>④ 発生から対策の流れを説明できる。</p> <p>⑤ 都道府県知事の権限を説明できる。</p> <p>⑥ 感染症患者の人権の尊重について説明できる。</p> <p>⑦ 結核対策の目的、実施主体、定期健康診断について説明できる。</p> <p>⑧ 難病対策の難病の定義を説明できる。</p> <p>⑨ 難病対策の目的を説明できる。</p> <p>⑩ 特定医療費の支給内容を説明できる。</p> <p>⑪ 難病患者に対する支援策の目的、実施主体を説明できる。</p> <p>⑫ 難病相談支援センター事業の目的、支援内容を説明できる。</p> <p>⑬ 特定疾患治療研究事業の内容を説明できる。</p> <p>⑭ 特定疾患治療研究事業の対象疾患名を説明できる。</p> <p>⑮ 治療と給付に関する説明ができる。</p>	葛谷桂司
成績評価方法		科目試験		
準備学習など		<p>1. 講義の進め方について</p> <p>テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して下さい。</p> <p>2. 準備について</p> <p>次のことを準備してください。</p> <p>1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。</p> <p>2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。</p>		

	<p>3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。</p> <p>4. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。</p> <p>必ず問題を解いておくようになしてください。レポート課題を1度出します。</p> <p>初めて法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取り組みましょう。</p> <p>必ず問題を解いておくようになしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>
留意事項	

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	病態概論
担当者	林 尚宜
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	教科書の内容にそった講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	機能障害科学入門 九州神陵文庫

<p>授業概要と目的</p> <p>リハビリテーションにおいて治療ターゲットとしているのは、機能障害そのものである。筋力低下や関節可動域制限などが、臨床場面にて良く遭遇する機能障害のひとつである。その病態や発生メカニズムにまで掘り下げ、それぞれの機能障害について深く学習する。今後、各セラピスト自身の手で治療ターゲットである機能障害を考えることができるようになることが目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「痛みの基礎知識と急性痛」 一般目標</p> <p>① 痛みの基礎知識について理解する</p> <p>② 急性痛とは何か理解する</p>	<p>「疼痛に関する基礎知識」 「急性痛とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 痛みの受容器について説明できる</p> <p>② 痛みの伝導路について説明できる</p> <p>③ 感作、可塑性について説明できる</p>	林 尚宜

			④ 急性痛とは何か説明できる ⑤ 急性痛の理学療法について説明できる	
2	前期	「慢性痛」 一般目標 ① 疼痛の定義と特徴について理解する ② 慢性痛の主な原因について理解する	「慢性疼痛とは」 到達目標 ⑥ 慢性痛の定義について説明できる ⑦ 慢性痛の原因について説明できる ⑧ 慢性痛に対するリハビリテーションについて説明できる	林 尚宜
3	前期	「炎症」 一般目標 ① 炎症の定義と特徴について理解する ② 主な原因について理解する	「炎症とは」 到達目標 ① 炎症の定義について説明できる ② 炎症の原因について説明できる ③ 炎症に対する薬物療法について説明できる 炎症に対するリハビリテーションについて説明できる	林 尚宜
4	前期	「創傷・熱傷・褥瘡」 一般目標 ① 疼痛の定義と特徴について理解する ② 主な原因について理解する	「創傷とは」 「熱傷とは」 「褥瘡とは」 到達目標 ① 創傷の定義について説明できる ② 創傷の原因について説明できる ③ 創傷に対するリハビリテーションについて説明できる ④ 創傷治癒過程について説明できる ⑤ 熱傷の治療について説明できる ⑥ 褥瘡の治療について説明できる	林 尚宜
5	前期	「筋損傷・肉離れ」 一般目標 ① 筋損傷の定義と特徴について理解する 主な原因について理解する	「筋損傷とは」 到達目標 ① 筋損傷の概念について説明できる ② 筋損傷の原因について説明できる ③ 筋の基本構造について説明できる ④ 筋損傷の治癒過程について説明できる 筋損傷の予防的アプローチについて説明できる	林 尚宜
6	前期	「腱損傷」 一般目標 ① 腱損傷の定義と特徴について理解する	「腱損傷」 到達目標 ① 靭帯損傷と腱損傷それぞれの定義について説明できる	林 尚宜

		② 腱損傷の主な原因について理解する	② 靭帯損傷と腱損傷それぞれ原因について説明できる ③ 靭帯損傷と腱損傷それぞれに対する外科的治療について説明できる ④ 靭帯損傷と腱損傷それぞれに対するリハビリテーションについて説明できる 治癒過程について説明できる	
7	前期	「靭帯損傷」 一般目標 ① 靭帯損傷の定義と特徴について理解する ② 靭帯損傷の主な原因について理解する	「靭帯損傷」 到達目標 ⑤ 靭帯損傷と腱損傷それぞれの定義について説明できる ⑥ 靭帯損傷と腱損傷それぞれ原因について説明できる ⑦ 靭帯損傷と腱損傷それぞれに対する外科的治療について説明できる ⑧ 靭帯損傷と腱損傷それぞれに対するリハビリテーションについて説明できる ⑨ 治癒過程について説明できる	林 尚宜
8	前期	「筋萎縮（廃用性、サルコペニア）」 一般目標 ① 筋萎縮の定義と特徴について理解する ① 主な原因について理解する	「廃用症候群」 「サルコペニア」 到達目標 ① 筋萎縮の定義について説明できる ② 筋萎縮の原因について説明できる ③ 廃用症候群について説明できる ④ サルコペニアについて説明できる ⑤ 運動による筋肥大のメカニズムについて説明できる ⑩ 治療戦略について説明できる	林 尚宜
9	前期	「骨折」 一般目標 ② 骨折の定義と特徴について理解する ② 主な原因について理解する	「骨折とは」 到達目標 ① 骨折の定義について説明できる ② 骨折の原因について説明できる ③ 骨折の分類について説明できる ④ 骨折の治癒過程について説明できる ⑤ 骨折の外科的治療について説明できる ⑪ 骨折の保存的治療について説明できる ⑥ 骨折のリハビリテーションの考え方について説明できる	林 尚宜

10	前期	<p>「末梢神経損傷（外傷、圧迫）」 一般目標</p> <p>① 末梢神経損傷の定義と特徴について理解する</p> <p>② 主な原因について理解する</p>	<p>「末梢神経損傷とは」 到達目標</p> <p>① 末梢神経損傷の定義について説明できる</p> <p>② 末梢神経損傷の原因について説明できる</p> <p>③ 末梢神経損傷の分類について説明できる</p> <p>④ 末梢神経損傷の症状について説明できる</p> <p>⑤ 末梢神経損傷の治癒過程について説明できる</p> <p>⑥ 神経損傷について説明できる</p> <p>⑦ 末梢神経損傷の治療について説明できる</p> <p>⑧ 末梢神経損傷ののリハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜
11	前期	<p>「麻痺、筋トーン異常（痙縮、固縮）」 一般目標</p> <p>① 筋トーン異常とはなにか理解する</p> <p>② 筋トーン異常の発生メカニズムを理解する</p>	<p>「痙縮とは」 「固縮とは」 到達目標</p> <p>① 筋トーン異常の定義について説明できる</p> <p>② 筋トーン異常の制御機構について説明できる</p> <p>③ 痙縮と固縮の比較を説明できる</p> <p>④ 薬物療法について説明できる</p> <p>⑤ リハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜
12	前期	<p>「関節可動域制限」 一般目標</p> <p>① 関節可動域制限の定義と特徴について理解する</p> <p>② 主な原因について理解する</p>	<p>「関節可動域制限とは」 到達目標</p> <p>① 関節可動域制限の定義について説明できる</p> <p>② 関節可動域制限の原因について説明できる</p> <p>③ 関節可動域制限に対する治療について説明できる</p> <p>④ 関節可動域制限に対するリハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜

13	前期	「関節可動域制限（演習）」 一般目標 ① 様々な病態の症例を通して 問題点の抽出、介入方法を理 解する	「症例検討」 到達目標 ① 問題点の抽出を行える ② 評価の選択ができる ③ 治療方法の選択ができる	林 尚宜
14	前期	「まとめ1」 一般目標 ① 各病態について理解を深め る	「まとめ」 到達目標 ① 各病態について問題点の抽出が行える ② 各病態について評価の選択ができる ③ 各病態について治療方法の選択ができ る	林 尚宜
15	前期	「まとめ2」 一般目標 ① 各病態について理解を深め る	「まとめ」 到達目標 ① 各病態について問題点の抽出が行える ② 各病態について評価の選択ができる ③ 各病態について治療方法の選択ができ る	林 尚宜
成績評価方法		期末試験、課題		
準備学習など		グループワークにて積極的に発言し、討論すること		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	理学療法研究法
担当者	小出 悠介
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義 グループワーク
教科書・参考書	理学療法研究法 医学書院 はじめての研究法 神陵文庫

授業概要と目的	
<p>本講義は専門職を目指し、研究に取り組もうとする前段階として、研究の必要性やその方法論について基礎知識を知る講義である。本講義の目的は文献レビュー方法や文章を書く上での作法（決まり事）、統計学的知識を理解し、その知識を使って、実際に文献レビュー課題を作成・発表できるようになることである。また、他の発表を評価することで、物事を批判的にみる能力を養うことも目的としている。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 講義内容について知る。研究の必要性について理解し、述べることができるようになる。	「講義説明/研究とはなにか」 ① 講義内容を理解する ② 研究の必要性について述べるができる。 ③ 研究を行う上で必要なことや構成要素、手順、手法を述べるができる。 ④ 研究手法についての国家試験問題を解くことができる。	小出悠介
2	後期	「統計学」 先行研究レビューや論文を読み解く上で必要な統計学的知識を理解し、実際の統計結果を説明できるようになる。	「先行研究を読み解く上で必要な統計学的知識」 ① 量的・質的研究の意味を知る。 ② 基本統計の結果を説明できるようになる。 ③ 多変量解析の結果を説明できるようになる。 ④ 実際の研究論文の統計結果を説明できるようになる。 ⑤ 統計学についての国家試験問題を解くことができる。	小出悠介
3	後期	「文章作成」 文章を書く（Word 使用）上での決まり事（書式や見出しなど）を理解し、説明できるようになる。	「論文を書く上での決まり事」 ① グループワークで文章を書く際に気を付けていることを述べるができる。 ② 一文、一段落を構成するときの文字数を意識できるようになる。 ③ 文章を書く際に、見出しやフォントを意識できるようになる。	小出悠介
4	後期	「研究論文の要約」	「文章の要約するには」 ① 研究計画書の構成を知る。 ② 研究論文の構成を知る。	小出悠介

		論文がどのように構成されているかを知り、文章から重要である箇所を述べることができる。	③ 実際の論文から重要な箇所を抜き取ることができる。	
5	後期	「文献検索方法」 実際に先行研究を文献検索サイトで、検索できるようになる。	「文献検索の為のコンピューター活用法」 文献検索サイトを知る。 実際に文献検索サイトを使用し文献検索ができるようになる。	小出悠介
6	後期	「文献レビュー」 理学療法関連分野の中で、テーマを決め、それについて文献検索を出来るようになる。	「文献検索サイトから文献を探し出し、レビューを行う」 ① グループワークでテーマを決め、文献検索を行うことができる。 ② 検索した文献を実際に読み、研究意義や研究デザイン、明らかになったこと、なっていないことをあげることができる。	小出悠介
7	後期	「要約作成」 文章を書く上での決まり事を用い、実際に検索（第6回）した文献について要約を作成することができる。	「実際の研究論文から要約を作成する」 ① 文章作成に決まり事を使用し、文章を書くことができる。 ② 実際の研究論文から A41 枚程度の要約を作成できるようになる。	小出悠介
8	後期	「発表課題テーマ決め」 グループで理学療法関連分野から発表課題のテーマを決めることができる。また、締め切りを意識しスケジュールを作成できる。	「発表課題のテーマとスケジュール」 ① グループワークで発表課題のテーマを決めることができる。 ② 締め切りから逆算してスケジュールを組むことができる。	小出悠介
9	後期	「発表課題作成①」 決めたテーマについての先行研究を、文献検索サイトを使用し、探し出すことができる。	「課題テーマの文献レビュー」 ① 課題テーマの内容に関わる文献検索ができる。 ② 各分野それぞれ 5 本以上レビューすることができる。	小出悠介
10	後期	「発表課題作成②」 検索した文献の内容をまとめることができる。組んだスケジュールからタイムマネジメントが出来る。	「課題テーマの文献の内容をまとめる」 ① 各文献から研究デザインや結果、明らかになったことなどをまとめることができる。 ② 発表課題の構成をグループで決めることができる。 ③ 進捗状況を担当教員に適切に報告ができる。	小出悠介

11	後期	「課題作成③」 決めた構成に従い、文章を作成できる。その際に、文章作成の決まり事を意識し、グループ内で書式をそろえることができる。	「実際に文章を作成する」 ① 文章作成の決まり事を意識し、文章を作成できるようになる。 ② 作成する際に、見出しやフォントなどグループ内で書式を統一できる。 ③ 進捗状況を担当教員に適切に報告ができる。	小出悠介
12	後期	「課題作成④」 発表原稿を作成し、時間内に内容を伝えられるようになる。	「発表の準備」 ① 作成した課題を基に発表原稿を作成する。 ② 実際にグループ内で予演会を行い時間内に発表できるようになる。 ③ 締め切りまでに発表課題を担当教員に提出することができる。	小出悠介
13	後期	「課題発表と評価①」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べるることができる。	小出悠介
14	後期	「課題発表と評価②」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べることができる。	小出悠介
15	後期	「課題発表と評価③/総評」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べることができる。	小出悠介
成績評価方法		要約課題の提出 (20点) 授業態度・課題制作グループワーク態度 (20点) 発表課題提出 (30点) 課題の発表と評価 (30点) 合計 100点で評価		
準備学習など		提出物が評価対象となります。その為、締め切りは厳守といたします。		
留意事項		他グループ発表時の聞く態度も評価します。		

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	理学療法管理学
担当者	星野 茂
単位数（時間数）	2単位 （30時間）
学習方法	講義形式 グループワーク
教科書・参考書	リハビリテーション管理学 斎藤秀之編 医学書院

授業概要と目的
<p>日本では、人口構造の変化、高齢化の進展により、医療保険制度と介護保険制度も変更を余儀なくされてきた。それに伴って理学療法士が活躍する現場も医療から介護や保健、教育などに広がり、役割が増してきている。このような背景のもと、我々理学療法士には、制度の変化に素早く適応するための対応力、自らが積極的に関与していくマネジメント能力を身につけること、教育と倫理について正しい知識を学習することが求められる。本講義では、すでに述べた理学療法士として必要な能力を獲得し、社会への対応力やその中のマネジメント力を備えた、質の高い理学療法士となることを目的としている。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「社会保障制度・医療保険」 ①社会保障制度の成り立ち、概要、仕組みについて説明できる。 ②医療保険の仕組みについて説明することができる。 ③診療報酬制度について説明できる。	星野 茂
2	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「介護保険」 ①介護保険の仕組みについて説明できる。 ②介護保険給付サービスの種類について理解する。 ③介護報酬制度について説明できる。	星野 茂
3	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「障害者サービスと予防」 ①障害者手帳の概要を理解する。 ②障害者総合支援法について説明できる。 ③介護予防、保健指導の方法について説明できる。	星野 茂
4	後期	「職業倫理」 職業倫理について理解する。	「専門職に求められる職業倫理」	星野 茂

			①インフォームドコンセントについて説明できる. ②守秘義務の重要性を理解する	
5	後期	「職業倫理」 職業倫理について理解する.	「身分法と倫理綱領」 ①医療に関する法律について概要を理解する. ②理学療法士及び作業療法士法について理解する. ③各職能団体の倫理綱領について理解する.	星野 茂
6	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「組織体制、理学療法士の業務」 ①リハビリテーションスタッフに関係する組織体制について理解する. ②診療規則の書き方について理解し、作成することができる.	星野 茂
7	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「コンプライアンス、労務管理、」 ①医療職に求められるコンプライアンスについて知る. ②勤務体制と労時間管理について理解する. ③ハラスメントの種類と防止策を説明できる.	星野 茂
8	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「組織マネジメント」 ①リーダーシップとマネジメントの違いとそれぞれの注意点を理解する. ②人材管理とは何かを理解し、より良い組織づくりの方法を考えることができる	星野 茂
9	後期	「多職種連携と地域連携」 多職種連携の在り方、地域連携システムについて概要を理解する.	「多職種連携」 ①理学療法士が連携すべき多職種について説明できる. ②多職種連携の実際例を学び、将来の職業像を構築する.	星野 茂
10	後期	「多職種連携と地域連携」 多職種連携の在り方、地域連携システムについて概要を理解する.	「地域連携」 ①地域包括ケアシステムについて概要を理解する. ②地域ケアの現場における理学療法士の役割を学び、連携方法を確認する.	星野 茂

11	後期	「医療の質とリスクマネジメント」 医療の質について学び、リハビリテーションにおける質的保証や医療の安全性について理解する	「医療の質的保証とリスクマネジメント」 ①医療の質と患者満足度の関係を理解する ②臨床指標と質的指標について理解する ③リハビリテーションにおける質的保障について理解する ④医療の安全性と、インシデントレポートの概要について理解する	星野 茂
12	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「教育の役割」 ①教育の構造と役割について理解する。 ②教授方法と教育評価の方法について理解する。	星野 茂
13	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「養成教育制度」 ①理学療法士養成施設における指定規則について理解する。 ②授業カリキュラムの構築、指定規則とのつながりを理解する。 ③臨床実習の意義、目的について知る。	星野 茂
14	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「卒後教育」 ①自己研鑽の必要性について理解する。 ②職能団体について理解する。 ③認定制度について知る。 ④学術活動について理解する。	星野 茂
15	後期	「理学療法管理学まとめ」 本講義やその他の講義で得た知見を基に理学療法士に必要なスキルや知識、素養について理解し、今後の一助とする。	「まとめ」 ①実際の理学療法士業務について概要を説明できる。 ②自分が理学療法士スタッフをマネジメントするときの注意点を列挙できる。 ③ハラスメントの注意点について理解する。	星野 茂
成績評価方法		科目終了試験（100点）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	理学療法評価演習Ⅱ
担当者	熱尾 有加・奥地 伸城・寺島 弘将
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	新・徒手筋力検査法 第10版 株式会社協同医書出版社 運動療法のための機能解剖学的触診技術 第2版 メジカルビュー社 PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 国試画像問題攻略 第3版 医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
<p>徒手筋力評価法（以下、MMT）は、Daniels らによって開発された、徒手によって人体中の主要な筋肉の筋力を判定する検査法である。理学療法士において、診断の補助、運動機能の判定、治療効果の判定、治療の一手段として重要な項目である。本講義では、MMT の方法論と実際の技術までを習得することを目的としている。また、理学療法士は臨床現場で X 線や CT, MRI などといった画像を読み取り、評価や治療の参考にすることが多い。画像の診かたの基礎を学ぶ。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「PT・OT 画像問題」 一般目標 国家試験問題を解き、数値化する。	「国家試験問題 第1試行」 到達目標 ①国家試験における画像問題を解き、実力を知ることができる。 ②国家試験問題内のわからない言葉を列挙することができる。	熱尾 有加
2	通年	「脳の画像読影」 一般目標 脳画像についての基礎知識を理解する。	「CT と MRI 画像について」 到達目標 ①CT と MRI の違いについて説明できる。 ②頭部画像読影のポイントを理解できる。	熱尾 有加
3	通年	「脊柱の画像読影」 一般目標 脊柱画像についての基礎知識を理解する。	「脊柱の X 線, CT, MRI 画像について」 到達目標 ①脊柱の画像読影のポイントを理解することができる。	熱尾 有加
4	通年	「上下肢の画像読影」 一般目標 上下肢画像についての基礎知識を理解する。	「上下肢の X 線, CT, MRI 画像について」 到達目標 ①上下肢画像読影のポイントを理解することができる。	熱尾 有加

5	通年	「内臓の画像読影」 一般目標 内臓画像についての基礎知識を理解する.	「内臓の X 線, CT 画像について」 到達目標 ①内臓の画像読影のポイントを理解することができる.	熱尾 有加
6	通年	「PT・OT 画像問題」 一般目標 国家試験問題を解き, 講義の習熟度を確認する.	「国家試験問題 第 2 試行」 到達目標 ①国家試験における画像問題を解き, 講義の習熟度を知ることができる.	熱尾 有加
7	通年	「MMT 総論」 一般目標 ①MMT の意義について理解する. ②MMT の目的について理解する. ③MMT の方法について理解する.	「MMT の意義, 目的, 方法」 到達目標 ①MMT の意義, 目的を説明できる. ②筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルの重要性を説明できる. ③筋の触診技術の重要性を説明できる. ④MMT の段階付けを説明できる. ⑤MMT の原則を説明できる. ⑥MMT の測定方法を説明できる. ⑦MMT における代償動作を説明できる.	奥地 伸城
8	通年	「上肢の MMT (肩関節)」 一般目標 肩関節の MMT を正確に実施する.	「肩関節の MMT」 到達目標 ①肩関節各運動方向における主動筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる. ②肩関節 MMT の段階付けを説明できる. ③肩関節各運動方向における主動筋の触診ができる. ④肩関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる. ⑤評価における注意点を説明, 実践できる.	奥地 伸城
9	通年	「上肢の MMT (肩関節, 肩甲骨)」 一般目標 肩関節, 肩甲骨の MMT を正確に実施する.	「肩関節, 肩甲骨の MMT」 到達目標 ①肩関節, 肩甲骨の各運動方向における主動筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる. ②肩関節, 肩甲骨 MMT の段階付けを説明できる. ③肩関節, 肩甲骨の各運動方向における主動筋の触診ができる.	奥地 伸城

			④肩関節，肩甲骨 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明，実践できる。	
10	通年	「上肢の MMT（肩甲骨）」 一般目標 肩甲骨の MMT を正確に実施する。	「肩甲骨の MMT」 到達目標 ①肩甲骨の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。 ②肩甲骨 MMT の段階付けを説明できる。 ③肩甲骨の各運動方向における主動作筋の触診ができる。 ④肩甲骨 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明，実践できる。	奥地 伸城
11	通年	「上肢の MMT（肘関節，前腕，手関節）」 一般目標 肘関節，前腕，手関節の MMT を正確に実施する。	「肘関節，前腕，手関節の MMT」 到達目標 ①肘関節，前腕，手関節の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。 ②肘関節，前腕，手関節 MMT の段階付けを説明できる。 ③肘関節，前腕，手関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる。 ④肘関節，前腕，手関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明，実践できる。	奥地 伸城
12	通年	「上肢の MMT（母指，手指）」 一般目標 母指，手指の MMT を正確に実施する。	「母指，手指の MMT」 到達目標 ①母指，手指の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。 ②母指，手指 MMT の段階付けを説明できる。 ③母指，手指の各運動方向における主動作筋の触診ができる。 ④母指，手指 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明，実践できる。	奥地 伸城

13	通年	<p>「上肢の MMT (母指, 手指)」</p> <p>一般目標</p> <p>母指, 手指の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「母指, 手指の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①母指, 手指の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髓節レベルを説明できる.</p> <p>②母指, 手指 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③母指, 手指の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④母指, 手指 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	奥地 伸城
14	通年	<p>「上肢の MMT まとめ①」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ, 臨床現場でスムーズに実践できるよう準備をする.</p>	<p>「上肢の MMT の評価肢位と代償動作についてのまとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①上肢の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる.</p> <p>②上肢の MMT を肢位ごとに評価することができる.</p> <p>③上肢の MMT の代償動作について説明できる.</p>	奥地 伸城
15	通年	<p>「上肢の MMT 総合演習①」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価し, 疑問点を解消する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髓節レベルを説明できる.</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明, 実践できる.</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる.</p>	奥地 伸城
16	通年	<p>「上肢の MMT 総合演習②」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価し, 疑問点を解消する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髓節レベルを説明できる.</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる.</p>	奥地 伸城

			<p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明, 実践できる.</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる.</p>	
17	通年	<p>「上肢の MMT 総合演習③」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明, 実践できる.</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる.</p>	奥地 伸城
18	通年	<p>「上肢の MMT 総合演習④」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明, 実践できる.</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる.</p>	奥地 伸城
19	通年	<p>「下肢の MMT (股関節)」</p> <p>一般目標</p> <p>股関節の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「股関節の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①股関節の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②股関節 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③股関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④股関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	寺島 弘将

20	通年	<p>「下肢の MMT（股関節）」</p> <p>一般目標</p> <p>股関節の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「股関節の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①股関節の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②股関節 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③股関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④股関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	寺島 弘将
21	通年	<p>「下肢の MMT(膝関節，足関節)」</p> <p>一般目標</p> <p>膝関節，足関節の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「膝関節，足関節の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①膝関節，足関節の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②膝関節，足関節 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③膝関節，足関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④膝関節，足関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	寺島 弘将
22	通年	<p>「下肢の MMT（足関節，足趾）」</p> <p>一般目標</p> <p>足関節，足趾の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「足関節，足趾の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①足関節，足趾の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②足関節，足趾 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③足関節，足趾の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④足関節，足趾 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	寺島 弘将
23	通年	<p>「下肢の MMT まとめ」</p> <p>一般目標</p> <p>下肢に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ，臨床</p>	<p>「下肢の MMT の評価肢位と代償動作についてのまとめ」</p> <p>到達目標</p>	寺島 弘将

		現場でスムーズに実践できるよう準備をする。	①下肢の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる。 ②下肢の MMT を肢位ごとに評価することができる。 ③下肢の MMT の代償動作について説明できる。	
24	通年	「頸部, 体幹の MMT」 一般目標 頸部, 体幹の MMT を正確に実施する。	「頸部, 体幹の MMT」 到達目標 ①頸部, 体幹の各運動方向における主動筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる。 ②頸部, 体幹 MMT の段階付けを説明できる。 ③頸部, 体幹の各運動方向における主動筋の触診ができる。 ④頸部, 体幹 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明, 実践できる。	寺島 弘将
25	通年	「頸部, 体幹の MMT」 一般目標 頸部, 体幹の MMT を正確に実施する。	「頸部, 体幹の MMT」 到達目標 ①頸部, 体幹の各運動方向における主動筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる。 ②頸部, 体幹 MMT の段階付けを説明できる。 ③頸部, 体幹の各運動方向における主動筋の触診ができる。 ④頸部, 体幹 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明, 実践できる。	寺島 弘将
26	通年	「顔面の MMT, 頸部, 体幹 MMT まとめ」 一般目標 ①顔面筋の MMT に必要な知識を得る。 ②頸部, 体幹に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ, 臨床現場でスムーズに実践できるよう準備をする。	「顔面の MMT, 頸部, 体幹の MMT の評価肢位と代償動作についてのまとめ」 到達目標 ①顔面表情筋の名称を説明できる。 ②咀嚼筋の名称を説明できる。 ③顔面 MMT の段階付けを説明できる。 ④頸部, 体幹の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる。	寺島 弘将

			<p>⑤頸部，体幹の MMT を肢位ごとに評価することができる。</p> <p>⑥頸部，体幹の MMT の代償動作について説明できる。</p>	
27	通年	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習①」</p> <p>一般目標</p> <p>下肢，体幹に対する MMT を正確に評価し，疑問点を解消する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	寺島 弘将
28	通年	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習②」</p> <p>一般目標</p> <p>下肢，体幹に対する MMT を正確に評価し，疑問点を解消する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	寺島 弘将
29	通年	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習③」</p> <p>一般目標</p> <p>下肢，体幹に対する MMT を正確に評価する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	寺島 弘将

30	通年	「下肢，体幹の MMT 総合演習④」 一般目標 下肢，体幹に対する MMT を正確に評価する。	「下肢の MMT まとめチェック」 到達目標 ①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。 ②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。 ③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。 ④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。	寺島 弘将
成績評価方法		画像読影…筆記 20 点 総論・上肢 MMT…40 点（実技・筆記） 体幹・下肢 MMT…40 点（実技・筆記）		
準備学習など		MMT においては，1 年次で受講した運動学の知識（筋の起始，停止，神経支配，髄節レベル）と体表解剖学の知識と技術（触診）を予習しておくことでスムーズに受講できる。また，MMT では実技を中心に行うため，T シャツ，タンクトップ，短パンなど動きやすい服装で受講すること。さらに医療従事者として，ふさわしい容姿（髪型，髪色，爪など）で受講すること。 画像の講義においては，事前に解剖学の知識（骨，関節，脳，肺を中心に）を復習しておくこと。		
留意事項		学生の習熟度，実習室の使用状況などにより，学習内容や順序を変更することがあります。		

学科・年次	理学療法科 2 年次
科目名	理学療法評価演習Ⅲ
担当者	小出悠介
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）
学習方法	講義・演習形式
教科書・参考書	理学療法評価法第三版 神陵文庫 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂

授業概要と目的	
<p>評価を行うことは理学療法を実施する上で重要なことである。本講義は教科書上の各測定の見方を確認し、実務経験のある教員がデモンストレーションを行う。それについて、注意点や自己で行ったものとの差を確認する。</p> <p>本講義の目的は、治療に至る為の知識や技術、評価方法を実践的に理解し、教科書を見ることなく適切に実施できるようになることである。また、講義の後半ではケーススタディを実施し各疾患に対しての評価項目やその臨床的意義についても理解し、説明できるようになることである。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「形態測定① (上肢)」</p> <p>上肢長と上腕周径を適切な時間内に正確に測定でき、数値の差について考察ができる。</p>	<p>「上肢長・上肢周径の測定」</p> <p>① 計測に関するランドマークを正確に触診できるようになる。</p> <p>② 上肢長・上肢周径についての各定義を述べることができる。</p> <p>③ 実際にメジャーを使用し上肢長・上腕周径を計測できるようになる。</p> <p>④ 測定を行う上での注意点を自己であげることができる。</p> <p>⑤ 実際の測定結果について考察ができるようになる。</p>	小出 悠介
2	前期	<p>「形態測定② (下肢)」</p> <p>下肢長と下肢周径を適切な時間内に正確に測定でき、数値の差について考察ができる。</p>	<p>「上肢長・上肢周径の測定」</p> <p>① 計測に関するランドマークを正確に触診できるようになる。</p> <p>② 下肢長・下肢周径についての各定義を述べることができる。</p> <p>③ 実際にメジャーを使用し下肢長・下肢周径を計測できるようになる。</p> <p>④ 測定を行う上での注意点を自己であげることができる。</p> <p>⑤ 実際の測定結果について考察ができるようになる。</p>	小出 悠介
3	前期	<p>「深部腱反射」</p> <p>上下肢の深部腱反射を適切な時間内に正確に実施でき、結果について考察ができる。</p>	<p>「深部腱反射の検査を実施」</p> <p>① 深部腱反射のメカニズムについて理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 深部腱反射の各検査について実施場所や反射弓を述べるができる。</p> <p>③ 実際に打腱器を使用し、的確に実施することができる。</p>	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ④ 結果を記載することができる. ⑤ 亢進・消失といった結果を判定し、さらにその臨床上の意味合いを述べる ことができる. 	
4	前期	<p>「病的反射」</p> <p>上下肢の病的反射を適切な時間内に正確に実施でき、結果について考察ができる.</p>	<p>「病的反射の検査を実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病的反射の臨床的意義について理解し、説明できるようになる. ② 病的反射の各検査について実施場所や実施方法を述べる ことができる. ③ 実際に病的反射を的確に実施することができる. ④ 結果を記載することができる. ⑤ 陽性・陰性といった結果を判定し、さらにその臨床上の意味合いを述べる ことができる. 	小出 悠介
5	前期	<p>「Brunnstrom test 上肢・手指」</p> <p>上肢と手指の Brunnstrom test を適切に実施でき、stage 判定がスムーズにできるようになる.</p>	<p>「上肢と手指の Brunnstrom test の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 片麻痺の上肢・手指の運動障害の特徴（連合反応・共同運動）を理解し、各運動パターンについて説明できる. ② 回復段階について各 Stage の特徴を理解し、述べる ことができる. ③ 上肢と手指の Brunnstrom test の定義を憶えて自分で実践できる. ④ 被験者役を行うことができる. ⑤ 被験者を使って Brunnstrom test を測定できる. 	小出 悠介
6	前期	<p>「Brunnstrom test 下肢」</p> <p>下肢の Brunnstrom test を適切に実施でき、stage 判定がスムーズにできるようになる.</p>	<p>「下肢の Brunnstrom test の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 片麻痺の下肢の運動障害の特徴（連合反応・共同運動）を理解し、各運動パターンについて説明できる. ② 回復段階について各 Stage の特徴を理解し、述べる ことができる. ③ 下肢の Brunnstrom test の定義を憶えて自分で実践できる. ④ 被験者役を行うことができる. ⑤ 被験者を使って Brunnstrom test を測定できる. 	小出 悠介

7	前期	<p>「感覚検査①触覚・痛覚」</p> <p>触覚および痛覚検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察ができる。</p>	<p>「触覚・痛覚検査の実施」</p> <p>① 触覚・痛覚の伝導路を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 触覚・痛覚検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③ 触覚・痛覚検査の実施方法について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ デルマトームについて説明ができ、検査を行う際の臨床的意義が説明できる。</p> <p>⑤ 触覚・痛覚検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑥ 結果を記載できるようになる。</p>	小出 悠介
8	前期	<p>「感覚検査②位置覚・運動覚・振動覚」</p> <p>深部感覚の検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察ができる。</p>	<p>「位置覚・運動覚・振動覚の実施」</p> <p>① 位置覚・運動覚・振動覚の伝導路を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 位置覚・運動覚・振動覚検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③ 位置覚・運動覚・振動覚検査の実施方法について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 位置覚・運動覚・振動覚検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑤ 結果を記載できるようになる。</p>	小出 悠介
9	前期	<p>「協調性検査 上肢」</p> <p>上肢の協調性検査を適切な時間内に正確に実施し、結果について考察ができる。</p>	<p>「協調性検査 上肢の実施」</p> <p>① 失調症の定義を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 失調症の分類ができるようになる。</p> <p>③ 協調性検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 協調性検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑤ 協調性検査で認められる徴候について理解し、説明できるようになる。</p>	小出 悠介
10	前期	<p>「協調性検査 下肢」</p> <p>下肢の協調性検査を適切な時間内に正確に実施でき、結果について考察ができる。</p>	<p>「協調性検査 下肢の実施」</p> <p>① 失調症の定義を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 失調症の分類ができるようになる。</p>	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ③ 協調性検査の留意点について理解し、説明できるようになる。 ④ 協調性検査を的確に実施できるようになる。 ⑤ 協調性検査で認められる徴候について理解し、説明できるようになる。 	
11	前期	<p>「筋緊張検査 上肢・下肢」</p> <p>上肢・下肢の筋緊張検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察できる。</p>	<p>「筋緊張検査 上肢・下肢の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筋緊張の異常の種類について理解し、説明できるようになる。 ② 視診、触診にて筋緊張の状態を把握できるようになる。 ③ 被動性検査について理解し、説明できる。さらに的確に実施できるようになる。 ④ modified Ashworth scale について理解し、結果を記載できるようになる。 ⑤ 懸振性検査について理解し、的確に実施できるようになる。 	小出 悠介
12	前期	<p>「バランス検査」</p> <p>静的・動的バランス検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察できる。</p>	<p>「バランス検査の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 静的バランス検査である立ち直り反応、保護伸展反応について理解し、説明できるようになる。さらに的確に実施できるようになる。 ② 動的バランス検査である TUG・ファンクショナルリーチテストについて理解し、説明できるようになる。さらに的確に実施できるようになる。 ③ 結果を記載できるようになる。 	小出 悠介
13	前期	<p>「整形外科的検査①（頸部・胸郭出口部）」</p> <p>頸部と胸郭出口部に関する整形外科的検査を適切に選択し、スムーズに実施できるようになる。また、それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「頸部・胸郭出口部の整形外科的検査の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 頸部・胸郭出口部の整形外科的検査の実施方法について理解し、述べることができる。 ② 各検査の陽性徴候を述べることができる。 ③ 各検査の臨床的意義を理解し、説明することができる。 ④ 各検査について教科書を見ることなく、的確に実施することができる。 	小出 悠介

			⑤ 症例の症状により、検査を使い分けられるようになる。	
14	前期	<p>「整形外科的検査②（肩関節部・上肢）」</p> <p>肩関節部と上肢に関する整形外科的検査を適切に選択し、スムーズに実施できるようになる。また、それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「肩関節部・上肢部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 肩関節部・上肢部の整形外科的検査の実施方法について理解し、述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し、説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく、的確に実施することができる。</p> <p>⑤ 症例の症状により、検査を使い分けられるようになる。</p>	小出 悠介
15	前期	<p>「整形外科的検査③（腰椎部・股関節部）」</p> <p>腰椎部と股関節部に関する整形外科的検査を適切に選択し、スムーズに実施できるようになる。また、それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施方法について理解し、述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し、説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく、的確に実施することができる。</p> <p>⑤ 症例の症状により、検査を使い分けられるようになる。</p>	小出 悠介
16	前期	<p>「整形外科的検査④（膝関節部・足関節部）」</p> <p>膝関節部と足関節部に関する整形外科的検査を適切に選択し、スムーズに実施できるようになる。また、それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「膝関節部・足関節部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施方法について理解し、述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し、説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく、的確に実施することができる。</p>	小出 悠介

			⑤ 症例の症状により、検査を使い分けられるようになる。	
17	前期	「脳神経外科的検査①（第Ⅰ～Ⅵ脳神経検査）」 第Ⅰ脳神経～第Ⅵ脳神経までの検査をスムーズに実施し、結果を判別できるようになる。	「第Ⅰ～Ⅵ脳神経検査の実施」 ① 第Ⅰ脳神経～第Ⅵ脳神経まで名称を述べることができる。 ② 各脳神経について機能学的分類を理解し述べることができる。 ③ 各脳神経の神経核の場所が言える。 ④ 各脳神経についての検査を理解し、説明できるようになる。 ⑤ 実際に検査項目を実施することができる。	小出 悠介
18	前期	「脳神経外科的検査②（第Ⅶ～Ⅻ脳神経検査）」 第Ⅶ脳神経～第Ⅻ脳神経までの検査をスムーズに実施し、結果を判別できるようになる。	「第Ⅶ～Ⅻ脳神経検査の実施」 ① 第Ⅶ脳神経～第Ⅻ脳神経まで名称を述べることができる。 ② 各脳神経について機能学的分類を理解し述べることができる。 ③ 各脳神経の神経核の場所が言える。 ④ 各脳神経についての検査を理解し、説明できるようになる。 ⑤ 実際に検査項目を実施することができる。	小出 悠介
19	前期	「まとめ①」 これまで実施してきた（第1回～9回）検査項目についてのまとめを行う。また、実際に行ったうえで生じた疑問点を解消する。	「第1回～10回までの検査項目の確認」 ① 形態測定検査について、検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。 ② 深部腱反射・病的反射について、検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。 ③ 教員が行う模擬患者に対して Brunnstrom test が実際に実施でき stage 判別ができる。 ④ 協調性検査について、検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。	小出 悠介
20	前期	「まとめ②」 これまで実施してきた検査項目についてのまとめを行う。また、	「第11回～18回までの検査項目の確認」 ① 筋緊張の検査について、検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。	小出 悠介

		実際に行っただけで生じた疑問点を解消する。	② 整形外科的検査（頸部～足部）について、検査名称を聞いてだけでその検査が実際に実施できる。 ③ 脳神経検査について、検査名称を聞いてだけでその検査が実際に実施できる。	
21	前期	「ケーススタディ（大腿骨頸部骨折①）」 大腿骨頸部患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。大腿骨頸部骨折で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	「大腿骨頸部骨折について調べ、学ぶ」 ① 大腿骨頸部骨折について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 大腿骨頸部骨折の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。	小出 悠介
22	前期	「ケーススタディ（大腿骨頸部骨折②）」 大腿骨頸部患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。大腿骨頸部骨折で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	「大腿骨頸部骨折についての検査測定項目を実施する」 ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に脱臼肢位について注意が出来るようになる。	小出 悠介
23	前期	「ケーススタディ（脳血管障害①）」 脳血管障害を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。脳血管障害で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	「脳血管障害について調べ、学ぶ」 ① 脳血管障害について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 脳血管障害の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。	小出 悠介
24	前期	「ケーススタディ（脳血管障害②）」 脳血管障害を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する	「脳血管障害についての検査測定項目を実施する」	小出 悠介

		る。脳血管障害で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に移乗動作介助や麻痺側の管理に注意出来るようになる。 	
25	前期	「ケーススタディ（小脳出血①）」 小脳出血患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。小脳出血で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	<p>「小脳出血について調べ、学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小脳出血について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べるができる。 ③ 小脳出血の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 	小出 悠介
26	前期	「ケーススタディ（小脳出血②）」 小脳出血患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。小脳出血で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<p>「小脳出血についての検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に移乗動作介助に注意出来るようになる。 	小出 悠介
27	前期	「ケーススタディ（腰椎圧迫骨折）」 腰椎圧迫骨折患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。腰椎圧迫骨折で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。腰椎圧迫骨折で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<p>「腰椎圧迫骨折について調べ、学び、必要な検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 腰椎圧迫骨折について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べるができる。 ③ 腰椎圧迫骨折の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ④ 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ⑤ 一連の検査測定を短時間で実施できる ⑥ 被験者を出来るようになる。 ⑦ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に禁忌肢位に注意する。 	
28	前期	<p>「ケーススタディ（腰椎椎間板ヘルニア）」</p> <p>腰椎椎間板ヘルニア患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。腰椎椎間板ヘルニアで考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。腰椎椎間板ヘルニアで考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。</p>	<p>「腰椎椎間板ヘルニアについて調べ、学び、必要な検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 腰椎椎間板ヘルニアについて調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 腰椎椎間板ヘルニアの障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 ④ 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ⑤ 一連の検査測定を短時間で実施できる ⑥ 被験者を出来るようになる。 ⑦ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に禁忌肢位や痛みに注意しながら検査を行うことができるようになる。 	小出 悠介
29	前期	<p>「ケーススタディ（まとめ①）」</p> <p>第21回～28回までのケーススタディのまとめを行う。各疾患の模擬患者を想定し、20～30程度の時間のなかで必要な評価を適切に選択し実施できるようになる。</p>	<p>「実際の理学療法介入場面を想定し、模擬患者に対して、問診や検査測定を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各疾患についてボトムアップ形式で必要な検査測定項目を述べることができる。 ② 20～30分の時間の中で、問診を含めた一連の検査項目を実施できるようになる。 ③ 検査結果を的確に記載できるようになる。 	小出 悠介

			④ 車椅子操作や移乗動作の際に模擬患者に合わせたリスク管理を行うことができる。	
30	前期	「ケーススタディ（まとめ②）」 第21回～28回までのケーススタディのまとめを行う。各疾患の模擬患者を想定し、20～30程度の時間のなかで必要な評価を適切に選択し実施できるようになる。	「実際の理学療法介入場面を想定し、模擬患者に対して、問診や検査測定を実施する」 ① 各疾患についてボトムアップ形式で必要な検査測定項目を述べることができる。 ② 20～30分の時間の中で、問診を含めた一連の検査項目を実施できるようになる。 ③ 検査結果を的確に記載できるようになる。 ④ 車椅子操作や移乗動作の際に模擬患者に合わせたリスク管理を行うことができる。	小出 悠介
成績評価方法		小テスト（40%） 実技テスト（60%）		
準備学習など		一年次に行っている理学療法評価学Ⅰの内容をより実践的に行います。その為、理学療法評価学Ⅰの復習をしっかりとしてから授業に臨んでください。		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	運動療法学
担当者	宇治 太孝
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明（編集）文光堂 2015年

授業概要と目的	
<p>運動療法は、解剖学や生理学、運動学といった基礎医学や臨床医学の元に確立されている。本講義では、理学量法の中核的治療手技である運動療法の技術全般に関する基礎的知識と技術を学ぶ。また、各種障害に対する運動療法の実際として、評価手法や運動療法理論、運動療法の進め方を理解することが本講義の目的である。さらに、ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークで、より理解を深めていく。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「運動療法の基礎知識とリスク管理」</p> <p>一般目標</p> <p>①運動療法における基礎知識を理解する。</p> <p>②運動療法を実施する上でのリスク管理について学ぶ。</p>	<p>「運動療法の基礎知識とリスク管理」</p> <p>到達目標</p> <p>①運動療法の定義と目的を説明できる。</p> <p>②運動療法におけるリスク管理について説明できる。</p> <p>③バイタルサインを説明できる。</p> <p>④運動療法の中止基準について説明できる。</p> <p>⑤一次救命措置(BLS)について手順を説明できる。</p> <p>⑦感染管理・予防について説明できる。</p> <p>⑧点滴・カテーテルの管理を説明できる。</p> <p>⑨転倒・転落のリスク管理を説明できる。</p>	宇治 太孝
2	前期	<p>「痛みの基礎知識と運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①痛みのメカニズムについて理解する。</p> <p>②痛みの評価法を理解する。</p> <p>③痛みに対する運動療法を理解する。</p>	<p>「痛みのメカニズムと評価、運動療法について」</p> <p>到達目標</p> <p>①痛みの定義、メカニズムについて説明できる。</p> <p>②痛みの客観的評価、身体機能評価、行動評価、心理的評価、包括評価について説明できる。</p> <p>③痛みに対する運動療法の実際として、肩の痛みと腰の痛みに対する運動療法を実践できる。</p>	宇治 太孝
3	前期	<p>「関節可動域制限に対する運動療法①」</p> <p>一般目標</p> <p>①ROMの制限因子の診かたについて理解する。</p>	<p>「ROM制限因子による違いから診るアプローチの実際」</p> <p>到達目標</p> <p>①関節可動域制限因子の種類について説明でき、制限因子の考え方を説明できる。</p>	宇治 太孝

		<p>②ROM 制限因子の違いから診るアプローチ方法を理解する.</p>	<p>②痛みによる ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>③皮膚の癒着や可動性の低下による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>④関節包の癒着や短縮による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑤筋・腱の短縮および筋膜の癒着による ROM 制限に対するアプローチを説明, 実践できる.</p> <p>⑥筋緊張増加による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑦関節内運動の障害による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑧腫脹・浮腫による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p>	
4	前期	<p>「関節可動域制限に対する運動療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>関節内障害による ROM 制限に対するアプローチ方法を理解する.</p>	<p>「関節内障害による ROM 制限に対するアプローチの実際」</p> <p>到達目標</p> <p>①関節モビライゼーションの基礎知識として, 骨運動と関節運動の説明ができる.</p> <p>②ゆるみの肢位 (LPP) としまりの肢位 (CPP) について説明できる.</p> <p>③関節モビライゼーションの基本手技を実践できる.</p> <p>④関節モビライゼーションを実践し, 効果判定ができる.</p>	宇治 太孝
5	前期	<p>「筋力低下に対する運動療法①」</p> <p>一般目標</p> <p>①筋力低下の原因について理解する.</p> <p>②筋力増加のメカニズムについて理解する.</p>	<p>「筋力低下の原因と筋力増加のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①神経学的要因による筋力低下を説明できる.</p> <p>②形態学的要因による筋力低下を説明できる.</p> <p>③筋の形態的要因による筋力増加のメカニズムを説明できる.</p> <p>④神経学的要因による筋力増加のメカニズムを説明できる.</p>	宇治 太孝

6	前期	<p>「筋力低下に対する運動療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>①筋力評価について理解する。</p> <p>②筋力低下に対する運動療法について理解する。</p>	<p>「筋力評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①筋力評価について説明できる。</p> <p>②過負荷の原則と特異性の原則を説明できる。</p> <p>③運動の三大条件を説明できる。</p> <p>④OCK と CKC との違いを説明できる。</p> <p>⑤各種筋力トレーニングにおける筋活動について説明できる。</p>	宇治 太孝
7	前期	<p>「持久力低下に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①持久力評価について理解する。</p> <p>②持久力低下に対する運動療法について理解する。</p>	<p>「持久力評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①持久力の定義と分類について説明できる。</p> <p>②全身持久力の評価として、Fick の原理、運動負荷試験、CPX、AT、6 分間歩行、ボルグスケール、METs について説明できる。</p> <p>③全身持久力トレーニングの至適運動強度を説明できる。</p> <p>④全身持久力トレーニングの効果について説明できる。</p> <p>⑤全身持久力低下に対する運動療法を説明できる。</p>	宇治 太孝
8	前期	<p>「ケーススタディ①」</p> <p>一般目標</p> <p>①ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークを行う。</p> <p>②関節可動域制限因子から考えられる必要なアプローチに対する理解を深める。</p> <p>③運動負荷量について理解を深める。</p>	<p>「ケーススタディ」</p> <p>到達目標</p> <p>①症例の評価結果から関節可動域制限因子を説明できる。</p> <p>②症例の評価結果から運動負荷量を決めることができる。</p>	宇治 太孝
9	前期	<p>「姿勢障害に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①アライメント評価について理解する。</p> <p>②姿勢障害に対する運動療法を理解する。</p>	<p>「アライメント評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①立位姿勢における身体各部位の関連性を説明できる。</p> <p>②姿勢評価を説明、実践できる。</p> <p>③姿勢障害に対する運動療法を説明、実践できる。</p>	宇治 太孝

10	前期	「正常歩行」 一般目標 正常歩行について理解する。	「正常歩行について」 到達目標 ①正常歩行動作における各関節運動について説明できる。 ②正常歩行動作における筋活動について説明できる。	宇治 太孝
11	前期	「歩行分析から求める理学療法プログラム立案」 一般目標 実際の異常歩行動作の動画を見て、歩行観察し、分析結果から問題点の抽出とプログラム立案までの過程を理解する。	「歩行動作から診るトップダウンの考え方」 到達目標 ①動画を見て、歩行動作における逸脱動作を列挙できる。 ②歩行分析ができる。 ③歩行分析の結果から問題点の抽出ができる。 ④歩行分析の結果から得た問題点を通じて理学療法プログラム立案ができる。	宇治 太孝
12	前期	「協調性運動障害に対する運動療法」 一般目標 ①協調性について理解する。 ②協調性運動障害に対する運動療法の理論を理解する。	「協調性運動障害の運動療法」 到達目標 ①運動発現のステップを説明できる。 ②原因別で協調性運動障害を説明できる。 ③Functional Reach Test を実践できる。 ④運動失調の分類を説明できる。 ⑤運動学習について説明できる。	宇治 太孝
13	前期	「急性期に必要な呼吸管理」 一般目標 ①呼吸と運動の関連性を理解する。 ②呼吸障害の評価について理解する。 ③呼吸障害に対する運動療法について理解する。	「呼吸評価と運動療法」 到達目標 ①運動における呼吸の役割を説明できる。 ②運動が呼吸に与える影響を説明できる。 ③呼吸障害に対する評価を説明できる。 ④動脈血液ガス分析について説明できる。 ⑤動脈血液ガス分析値によるアシドーシス、アルカローシスの識別ができる。 ⑥呼吸状態のアセスメントが説明できる。 ⑦呼吸障害に対するコンディショニングを説明、実践できる。 ⑧呼吸障害に対する運動療法を説明できる。	宇治 太孝

14	前期	<p>「急性期における大腿骨頸部骨折に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①大腿骨頸部骨折の病態について理解する。</p> <p>②大腿骨頸部骨折術後のリスク管理を理解する。</p> <p>③大腿骨頸部骨折術後の運動療法の進め方を理解する。</p>	<p>「大腿骨頸部骨折の術後管理と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①大腿骨頸部骨折のX線画像を読み取ることができる。</p> <p>②大腿骨頸部内側骨折と外側骨折の違いを説明することができる。</p> <p>③大腿骨頸部骨折術後の急性期リスク管理について説明できる。</p> <p>④大腿骨頸部骨折術後の急性期治療目標について説明できる。</p> <p>⑤関節可動域訓練のポイントについて説明できる。</p> <p>⑥筋力増強訓練のポイントについて説明できる。</p> <p>⑦大腿骨頸部骨折の予防について説明できる。</p>	宇治 太孝
15	前期	<p>「ケーススタディ②」</p> <p>一般目標</p> <p>①ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークを行う。</p> <p>②考えられる評価項目や治療プログラム立案を行える。</p> <p>③退院時の患者指導について理解する。</p>	<p>「ケーススタディ」</p> <p>到達目標</p> <p>①症例の全体像を捉えることができる。</p> <p>②症例に対する必要な評価項目を列挙できる。</p> <p>③症例に対する治療プログラムを列挙できる。</p> <p>④退院時の患者指導を実践する。</p>	宇治 太孝
成績評価方法		科目試験（100%）		
準備学習など		講義，グループワーク，実技など様々な授業を展開します。 実技の際は，動きやすい服装で受講してください。		
留意事項		学生の習熟度，実習室の使用状況などにより，学習内容や順序を変更することがあります。		

学科・年次	理学療法学科・2学年
科目名	脳血管障害理学療法演習
担当者	青木 浩代
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	資料・パワーポイント
教科書・参考書	病気がみえる・脳卒中

授業概要と目的	
<p>脳血管障害の病態を勉強し，病態に応じた各病期における専門的な知識・治療技術の習得を目的とする。 なお，理学療法士として，病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「脳血管障害の分類」 一般目標：脳血管障害の分類を知る	「脳血管障害の分類」 到達目標：脳血管障害の分類を理解するために必要な解剖学の知識を復習する。	青木 浩代
2	通年	「脳血管障害の分類」 一般目標：脳血管障害の分類を知る	「脳血管障害の分類」 到達目標：脳血管障害の分類を理解する。	青木 浩代
3	通年	「脳血管障害の病態」 一般目標：脳血管障害の病態を理解する	「脳血管障害の病態」 到達目標：脳血管障害の病態を理解し説明できる。	青木 浩代
4	通年	「脳梗塞の特徴」 一般目標：脳梗塞の特徴の理解	「脳の機能解剖」 「脳梗塞の特徴」 到達目標：脳の機能解剖が説明できる。 脳の機能解剖を理解し脳梗塞の特徴が説明できる。	青木 浩代
5	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳血管障害の治療法と随伴症状の理解。	「一般的な脳血管障害に対する治療法の学習と脳血管障害の随伴症状の説明」 到達目標：症状に対しての治療法と随伴症状を理解する。	青木 浩代
6	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 1.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え，中枢神経系の働きを説明できる。	青木 浩代

7	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 2.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え,中枢神経系の働きを説明できる.	青木 浩代
8	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 3.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え,中枢神経系の働きを説明できる.	青木 浩代
9	通年	「急性期の理学療法」 一般目標：急性期の理学療法の開始時期・リスクの理解.	「理学療法の開始時期・リスク管理を学習する」 到達目標：理学療法が開始できる時期と急性期におけるリスクを説明することができるようになる.	青木 浩代
10	通年	「急性期の理学療法」 一般目標：脳血管障害に必要な評価・治療法について理解できる.	「脳血管障害の急性期に必要な理学療法評価やベッド上で実施できる治療について学ぶ」 到達目標：脳血管障害の急性期に必要な評価項目を挙げることができ、ベッド上での治療法を説明することができる.	青木 浩代
11	通年	「回復期の理学療法」 一般目標：脳血管障害の回復期で起こりうる後遺障害を理解し,障害に対する治療法を理解する.	「脳血管障害回復期で起こりうる後遺障害や問題点を学習し,問題点の抽出方法や後遺障害に対するアプローチ方法を学ぶ」 到達目標 回復期で考えられる問題点・後遺障害等から問題点の抽出方法やアプローチ方法を説明することができる.	青木 浩代
12	通年	「回復期の理学療法」 一般目標：脳血管障害回復期に考えるべき評価・治療法が説明できる.	「脳血管障害回復期の問題点・後遺障害から考えるべき評価の種類と回復期に実施できる治療法を学ぶ」 到達目標 回復期に必要な評価と治療法が説明できる.	青木 浩代
13	通年	「生活期の理学療法」 一般目標：生活期で起こりうる後遺障害や生活支援体制を覚える.	「生活期で起こりうる後遺障害や患者の生活支援を学ぶ」 到達目標 生活期で起こりうる後遺障害や生活支援体制を説明できる.	青木 浩代

14	通年	「生活期の理学療法」 一般目標：生活期に考えるべき評価・治療法が説明できる。	「脳血管障害生活期の後遺障害から考えるべき評価の種類と生活期に実施できる治療法を学ぶ」 到達目標 生活期に必要となる評価と治療法が説明できる。	青木 浩代
15	通年	「急性期の治療実技」 一般目標：急性期の治療の学習。	「急性期における治療上の注意点に配慮した治療を上肢の関節可動域訓練を中心に行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる。	青木 浩代
16	通年	「急性期の治療実技」 一般目標：急性期の治療の学習。	「急性期における治療上の注意点に配慮した治療を下肢の関節可動域訓練を中心に行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる。	青木 浩代
17	通年	「回復期の治療実技」 一般目標：回復期の治療の学習。	「回復期における治療上の注意点に配慮した治療を行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる。	青木 浩代
18	通年	「生活期の治療実技」 一般目標：生活期の治療の学習。	「生活期における治療上の注意点に配慮した治療を行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる。	青木 浩代
19	通年	「その他の訓練 1」 一般目標：様々な訓練方法を学ぶ。	「筋力訓練」 到達目標 様々な訓練方法を学び適応に合わせて適切に使い分けができるようになる。	青木 浩代
20	通年	「その他の訓練 2」 一般目標：様々な訓練方法を学ぶ	「筋力訓練」 到達目標 様々な訓練方法を学び適応に合わせて適切に使い分けができるようになる。	青木 浩代

21	通年	「高次脳機能障害」 一般目標：高次脳機能障害とはどのような状態をいうのかを学ぶ。	「代表的な高次脳機能障害を知り脳的部位と症状との関係を学ぶ」 到達目標 脳の部位と症状の関係性が理解できるようになる。	青木 浩代
22	通年	「失語症とは」 一般目標：失語症の病態・評価法を学ぶ。	「失語症の主な症状と病巣部位、検査と評価、支援について学ぶ」 到達目標 失語症の主な症状と病巣を説明することができる。	青木 浩代
23	通年	「失行」 一般目標：失行の概念、評価法を学ぶ。	「失行の症状を学習し失行に対する理解を深める」 到達目標 代表的な失行の症状を説明することができる。	青木 浩代
24	通年	「失認」 一般目標：失認の病態病巣を学ぶ。	「失認」 一般目標：失認の病態病巣を学ぶ。	青木 浩代
25	通年	「知能障害」 一般目標：知能・知能とは何かを知る。	「知能障害とはどのような状態をいうのかを理解し、知能障害の患者に対する支援方法を学ぶ。」 到達目標 知能障害を理解し知能障害に対してアプロ地できるようになる。	青木 浩代
26	通年	「注意障害」 一般目標：注意障害とは何かを学ぶ。	「注意障害の病態・種類、検査・評価、支援について学ぶ」 到達目標 注意障害の病態を理解し適切な検査・評価を選択することができるようになる。	青木 浩代
27	通年	「記憶障害」 一般目標：記憶の分類を知り、記憶障害を学ぶ。	「記憶の種類について学び、検査・評価法を学ぶ」 到達目標 記憶障害の種類を説明することができるようになる。	青木 浩代
28	通年	「遂行機能障害」 一般目標：遂行機能について学び、遂行機能障害の症状を理解する。	「遂行機能障害の症状について学び、検査・評価法を学ぶ」 到達目標 遂行機能障害の病態を理解し説明することができるようになり、検査・評価を実施することができるようになる。	青木 浩代

29	通年	「感情と行動の障害」 一般目標：感情と行動の障害とは何かを学ぶ。	「感情と行動の障害について学び、障害に対するアプローチ方法を理解する。」 到達目標 感情と行動の障害の病態を理解し、説明することができるようになる。	青木 浩代
30	通年	「まとめ」 一般目標：これまでに学んだ疾患の症状と解剖学の知識を結び付けて考えることができ、各期に応じた治療の意味を理解する。	「まとめ」 到達目標：脳の機能解剖から各期の症状に応じた治療を考えることができるようになる。	青木 浩代
成績評価方法		科目試験（100%） 小テスト		
準備学習など		授業毎の予習と復習		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	運動器障害理学療法演習
担当者	辻 智之・杵山哲平
単位数（時間数）	3単位（90時間）
学習方法	教科書・スライドを使つての講義
教科書・参考書	運動器疾患の理学療法（SHINRYOBUNKO）

授業概要と目的
<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患全般の知識を得る。 ・整形外科医の診断、処方を正確に理解する能力を身に付け、問題点を把握し、どのように理学療法を行っていくかを習得する。 ・なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「運動器疾患とは」 ①運動器疾患について理解する。	「『運動器の10年』世界運動の取り組みを理解することができる」 ①運動器疾患の評価と運動療法アプローチの方法を述べることができる。	辻 智之
2	前期	「運動器疾患の理学療法評価」 ①運動器疾患の理学療法評価について理解する。	「運動器疾患の理学療法を理解することができる」 ①疼痛・腫脹・感覚・関節可動域・関節不安定性・筋力・身体姿勢アライメント・動作分析・ADL等の理学療法評価を行うことができる。 ②自他動運動・ストレッチング・筋力トレーニング・モビライゼーション・マイオセラピー・関節解剖学的アプローチ・神経筋促通法等の運動療法アプローチを説明できる。	辻 智之
3	前期	「上肢(肩甲帯)」 ①肩甲帯周囲の疾患について理解する。	「肩関節脱臼・肩鎖関節脱臼・胸鎖関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べるができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
4	前期	「上肢(肩関節周囲)」 ①肩関節周囲の疾患について理解する。	「肩関節脱臼・肩鎖関節脱臼・胸鎖関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
5	前期	「上肢(上腕骨)」 ①肩関節周囲の疾患について理解する。	「上腕骨近位端骨折・上腕骨骨幹部骨折・腱板断裂・肩関節周囲炎」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
6	前期	「上肢(神経系)」 ①上肢の神経系疾患について理解する。	「反射性交感神経ジストロフィー・腕神経叢麻痺」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。	辻 智之

			②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	
7	前期	「上肢(肘関節とその周辺①)」 ①肘関節周囲の疾患について理解する。	「肘関節の働きを説明することができる」 「肘関節脱臼・上腕骨顆上骨折・上腕骨外顆骨折」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
8	前期	「上肢(肘関節とその周辺②)」 ①肘関節周囲の疾患について理解する。	「上腕骨内側上顆骨折・肘頭骨折」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
9	前期	「前腕」 ①前腕部の疾患について理解する。	「骨近位端(橈骨頭)骨折・両側前腕骨骨幹部骨折・肘内障・上腕骨外側上顆炎」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
10	前期	「肘関節部」 ①肘関節疾患について理解する。	「肘関節離断性骨軟骨炎・変形性肘関節症・フォルクマン拘縮」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
11	前期	「手関節とその周辺①」 ①手関節周囲の疾患について理解する。	「コーレス骨折・スミス骨折・バートン骨折」 ①疾患概念、合併症、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
12	前期	「手関節と母指」 ①手関節周囲の疾患について理解する。	「月状骨軟化症・母指 Bennett 骨折・母指 MP 関節尺側側副靭帯断裂・母指 MP 関節背側脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之

13	前期	「手指①」 ①手指疾患について理解する。	「第1中手骨骨折・中手骨基部骨折・中手骨骨幹部骨折・中手骨頸部骨折・MP関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
14	前期	「手指②」 ①手指疾患について理解する。	「基節骨骨折・PIP関節内骨折・中節骨骨折・PIP関節脱臼、末節骨骨折・槌指」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
15	前期	「手指炎症性疾患」 ①手指炎症性疾患について理解する。	「狭窄性腱鞘炎(ばね指)・橈骨茎状突起痛(ドケルバン病)」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
16	前期	「手指腱断裂」 ①手指腱断裂について理解する。	「伸筋腱断裂・屈筋腱断裂」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
17	前期	「線維腫症、手関節・手指の運動器疾患に共通する理学療法」 ①線維腫症、手関節・手指の運動器疾患に共通する理学療法について理解する。	「Dupuytren 拘縮」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。 ③肩甲帯周囲・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手指の具体的な過剰筋緊張の減弱および関節可動域確保・改善方法を説明することができる。	辻 智之
18	前期	「脊髄損傷①」 ①脊髄損傷について理解する。	「脊髄損傷」 ①疾患概念、分類、病理を述べることができる。 ②随伴症・合併症、膀胱障害を説明することができる。 ③理学療法評価を説明することができる。	杵山哲平

19	前期	「脊髄損傷②」 ①脊髄損傷の理学療法について理解する。	「脊髄損傷」 ①胸・腰髄損傷の理学療法を説明できる。 ②頸髄損傷の理学療法を説明できる。	杵山哲平
20	前期	「体幹の外傷」 ①体幹の疾患について理解する。	「脊椎損傷」 ①胸椎以下の脊椎損傷の解剖学的特徴を述べるができる。 ②分類と臨床像を説明することができる。 ③理学療法評価、理学療法を説明することができる。	杵山哲平
21	前期	「頸部捻挫」 ①頸部捻挫について理解する。	「頸部捻挫」 ①疾患概念、症状、病理と病因について述べるができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムについて説明することができる。	杵山哲平
22	前期	「肋骨骨折」 ①肋骨骨折について理解する。	「肋骨骨折」 ①病態、臨床所見を述べるができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
23	前期	「鎖骨骨折」 ①鎖骨骨折について理解する。	「鎖骨骨折」 ①病態、臨床症状を述べるができる。 ②理学療法評価、治療、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
24	前期	「骨盤骨折」 ①骨盤骨折について理解する。	「骨盤骨折」 ①分類、合併症を述べるができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムを説明できる。	杵山哲平
25	前期	「頸椎疾患①」 ①頸椎疾患の概要を理解する。	「頸椎椎間板ヘルニア」 ①疾患概念、分類を述べるができる。 ②症状、他疾患との鑑別を説明することができる。	杵山哲平
26	前期	「頸椎疾患②」 ①頸椎疾患の概要を理解する。	「頸部脊柱管狭窄症・頸部後縦靭帯骨化症」 ①疾患の概念を述べるができる。 ②整形外科的治療の概略、薬物療法、手術療法を述べるができる。 ③理学療法評価、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
27	前期	「頸椎疾患③」 ①頸神経由来の疾患を理解する。	「頸肩腕症候群」 ①病態、理学療法評価を述べるができる。	杵山哲平

			②物理療法、装具療法等を説明することができる。	
28	前期	「胸・腰椎部疾患①」 ①胸・腰椎部について理解する。	「脊柱周辺の機能解剖」 ①脊柱支持組織について説明することができる。 ②脊柱起立筋群について説明することができる。	杵山哲平
29	前期	「胸・腰椎部疾患②」 ①腰痛症について理解することができる。	「急性腰痛症、慢性腰痛症」 ①疾患の概念を述べることができる。 ②治療方針、治療内容、クリティカルパスを説明することができる。	杵山哲平
30	前期	「胸・腰椎部疾患③」 ①椎体部疾患について理解することができる。	「腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症、腰椎分離すべり症、腰椎変性すべり症」 ①病態、症状所見について述べることができる。 ②治療経過を観察することができる。	杵山哲平
31	前期	「腰痛の評価、理学療法」 ①腰痛に対する理解と治療を理解することができる。	「腰痛の評価と理学療法」 ①疼痛、視診、触診、運動診を行うことができる。 ②神経学的検査、筋力検査を行うことができる。 ③急性期、回復期、維持期について説明できる。	杵山哲平
32	前期	「変形」 ①脊柱の変形について理解することができる。	「脊柱側弯症、脊柱後弯、円背」 ①疾患概念、理学療法評価を行うことができる。 ②治療、運動療法、装具療法を説明することができる。	杵山哲平
33	前期	「股関節の解剖・機能」 「股関節周辺①」 ①股関節の基礎を理解する。 ②股関節疾患について理解する。	「股関節の解剖・機能、役割を説明できる」 「大腿骨頸部骨折」 ①疾患概念、受傷要因を述べることができる。 ②骨折分類、術後理学療法、離床期のアプローチを説明できる。 ③大腿骨頸部骨折での理学療法士が心得ておくべき点を説明できる。	辻 智之
34	前期	「股関節周辺②」 ①股関節疾患について理解する。	「変形性股関節症」	辻 智之

			<p>①疾患概念、臨床症状、病期分類を述べる ことができる。</p> <p>②変形性股関節症に用いるスクリーニング テストを実施できる。</p> <p>③保存療法に対する理学療法、観血的治療 に対する理学療法を説明できる。</p>	
35	前期	<p>「股関節周辺③」</p> <p>①股関節疾患について理解する。</p>	<p>「大腿骨頭壊死・先天性股関節脱臼」</p> <p>①疾患概念、治療内容、治療方針、症状、 所見を説明できる。</p> <p>②理学療法、術後理学療法、クリティカル パスを説明できる。</p>	辻 智之
36	前期	<p>「股関節周辺④」</p> <p>①股関節疾患について理解する。</p>	<p>「ペルテス病・外傷性股関節脱臼・大腿骨 骨幹部骨折」</p> <p>①疾患概念、治療内容、治療方針、症状、 所見を述べるができる。</p> <p>②理学療法、術後理学療法、クリティカル パスを説明できる。</p>	辻 智之
37	前期	<p>「膝関節とその周辺」</p> <p>①膝関節の基礎を理解する。</p> <p>②膝関節疾患について理解する。</p>	<p>「膝関節の解剖・機能」</p> <p>①膝関節周囲の受傷機転、症状を述べるこ とができる。</p> <p>②徒手検査、画像診断、整形外科的治療、 理学療法評価を説明できる。</p>	辻 智之
38	前期	<p>「変形性膝関節症」</p> <p>①変形性膝関節症について理解 する。</p>	<p>「変形性膝関節症」</p> <p>①疾患概念、症状を述べるができる。</p> <p>②検査、整形外科的治療を説明できる。</p> <p>③理学療法評価、保存療法、高位脛骨骨切 り術。</p> <p>④人工膝関節置換術、人工膝単顆置換術、 術後深部静脈血栓症について説明できる。</p>	辻 智之
39	前期	<p>「関節リウマチ」</p> <p>①関節リウマチについて理解す る。</p>	<p>「関節リウマチ」</p> <p>①疾患概念、症状を述べるができる。</p> <p>②診断基準、検査、分類、疾患・障害の評 価、薬物療法を説明できる。</p> <p>④関節リウマチの膝関節に対する観血的治 療、理学療法を説明できる。</p>	辻 智之
40	前期	<p>「膝半月板の解剖・機能」</p> <p>「半月板損傷」</p> <p>①膝半月の基礎を理解する。</p> <p>②半月板損傷について理解する。</p>	<p>「膝半月板」</p> <p>①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状、 徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理 学療法評価を説明できる。</p>	辻 智之

			②半月板損傷の疾患概念、分類、合併症、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	
41	前期	「膝靭帯の解剖・機能」 ①膝靭帯の基礎を理解する。	「膝靭帯」 ①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状を述べることができる。 ②徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。	辻 智之
42	前期	「膝靭帯損傷」 ①膝靭帯損傷について理解する。	「膝靭帯」 ①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状、徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。 ②前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷の疾患概念、分類、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
43	前期	「膝周辺①」 ①膝周囲の疾患について理解する。	「膝蓋大腿関節障害・膝蓋骨脱臼・亜脱臼・タナ障害・膝離断性骨軟骨炎」 ①疾患概念、理学所見を述べるができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
44	前期	「膝周辺②、下腿骨骨折①」 ①膝周囲、下腿骨骨折について理解する。	「オスグッドシュラッター病・膝蓋骨骨折・脛骨骨幹部骨折」 ①疾患概念を述べることができる。 ②分類、合併症、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる」	辻 智之
45	前期	「下腿骨骨折②、下腿疾患」 ①下腿骨骨折、下腿疾患について理解する。	「脛骨プラトー骨折・脛骨天蓋骨折(plafond骨折)・疲労骨折・下腿コンパートメント症候群」 ①疾患概念を述べることができる。 ②分類、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる」	辻 智之
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目試験(100点) ・ 出席状況 ・ 授業態度 		

準備学習など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業に対する予習 ・ 授業後の復習
留意事項	特になし

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	呼吸器障害理学療法学
担当者	阿部司 他1名(非常勤講師)
単位数(時間数)	2単位(30時間)
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	教科書：居村茂幸(監)：ビジュアル実践リハ「呼吸・心臓リハビリテーション」羊土社 参考資料：スライドやプリント

授業概要と目的
<p>呼吸理学療法は、解剖学や生理学、運動学など、基礎医学や臨床医学が基に確立されている。本講義では、呼吸理学療法の基礎を学び、呼吸のメカニズムを知り、フィジカル・アセスメントや手技を学ぶ。また、呼吸器疾患に対する理学療法評価と治療プログラムの選択から、実践できる力を養うこと。また、気管吸引に関する知識と技術を習得することが本講義の目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 コマ		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「呼吸理学療法の総論・呼吸器系の解剖」 一般目標 ① 呼吸器に関わる解剖や胸郭の運動学を理解する。 ② 呼吸器系の生理学について理解する	「呼吸理学療法の概要、解剖や運動について」 到達目標 ①運動と呼吸・循環反応の関係や呼吸不全、呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法の定義を説明できる。 ③ 呼吸器の構造や胸郭運動を説明できる。 ④ 人工呼吸と自発呼吸の違いが理解できる	阿部司 他1名(非常勤講師)
2	後期	「呼吸器系の生理学・呼吸不全の病態」 一般目標 ① 呼吸不全を呈する疾患と病態、それらの分類を理解する。	「呼吸器系の生理学や呼吸器疾患について」 到達目標 ② 肺機能や酸素化、換気などを説明できる。	阿部司 他1名(非常勤講師)

		② 人工呼吸器の基礎について ③ 胸部 X 線の所見	⑤ 閉塞性と拘束性肺疾患についての説明ができる。 ⑥ 人工呼吸器モードについて理解する ⑦ 無気肺や肺炎の所見が分かる	
3	後期	「急性期の呼吸理学療法 1」 一般目標 ① 急性呼吸不全の病態を理解する。 ② 外科手術が生体に与える影響や呼吸理学療法の目的を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 呼吸理学療法の目的を説明できる。 ② 急性呼吸不全の病態を説明できる。 ③ 安静の弊害を理解する。	阿部 司 他1名(非常勤講師)
4	後期	「急性期の呼吸理学療法 2」 一般目標 ① 排痰手技について。 ② 外科手術が生体に与える影響や呼吸理学療法の目的を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 排痰の基本手技を理解する。 ② 外科手術が生体に与える影響について説明ができる。	阿部 司 他1名(非常勤講師)
5	後期	「急性期の呼吸理学療法」 一般目標 ① 下側肺障害の病態を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 体位呼吸療法について病態出現の機序を理解できる。	阿部 司 他1名(非常勤講師)
6	後期	「急性期の呼吸理学療法」 一般目標 ① 急性呼吸不全に対する呼吸介助手技を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 他の手技との違いを知る。 ② 呼吸介助手技の効果が理解できる。	阿部 司 他1名(非常勤講師)
7	後期	「呼吸理学療法の評価と実技 1」 一般目標 ① フィジカル・アセスメントの内容を理解する。 ② 実際に評価方法を実技で習得する。	「呼吸理学療法のフィジカル・アセスメントについて」 到達目標 ① 問診、視診、触診、打診、聴診について説明ができる。 ② 実際に評価方法の手技ができる。	阿部 司 他1名(非常勤講師)
8	後期	「呼吸介助手技の実習」 一般目標 ① 健常者同士で呼吸介助手技の技術を練習する	「呼吸介助手技の実習」 到達目標 ① 換気量変化、吸気、呼気が増加する技術を体験できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
9	後期	「気管吸引と理学療法」 一般目標 ① 気管吸引がなぜ必要なのか理解する	「気管吸引と理学療法」 到達目標 ① 気管吸引の合併症が分かる ② 気管挿管、気管切開の構造が理解できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
10	後期	「気管吸引の実習 1」 一般目標	「気管吸引の実習 1」 到達目標 ① 感染管理の重要性が理解できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)

		① シミュレーターを用いて気管吸引の手順を習得する	② 吸引操作が習得できる	常勤講師)
11	後期	「気管吸引の実習 2」 一般目標 シミュレーターを用いて気管吸引の手順を習得する	「気管吸引の実習 1」 到達目標 ③ 感染管理の重要性が理解できる 吸引操作が習得できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
12	後期	「慢性期の呼吸理学療法 1」 一般目標 ① 慢性呼吸不全の病態を理解する	「慢性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 慢性呼吸不全の原因となる疾患を理解する ② 呼吸不全について説明できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
13	後期	「慢性期の呼吸理学療法 2」 一般目標 ① 呼吸機能検査を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 2」 到達目標 ① スパイロメトリーについて説明できる ② 検査に必要な呼吸器関連の記号について説明できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
14	後期	「慢性期の呼吸理学療法 3」 一般目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法の目的を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 3」 到達目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法評価の目的と実際の方法について理解する	阿部 司 他1名(非常勤講師)
15	後期	「慢性期の呼吸理学療法 4」 一般目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法の方法を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 4」 到達目標 ① 運動負荷について説明できる ② 運動中止基準について説明できる ③ 運動の種類と目的について説明できる	阿部 司 他1名(非常勤講師)
成績評価方法	科目試験 (100%)			
準備学習など	講義形式・実技形式の講義を予定します。実技の際は、動きやすい服装で受講して下さい。 講義前に出欠の確認をさせていただきます。			
留意事項	特になし			

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	循環器障害理学療法学
担当者	伊東 由教・大竹 浩史
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	病気が見える 循環器 vol.2 第4版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア 2017年

授業概要と目的	
<p>循環器は解剖学、生理学、心電図、基礎医学の知識が必要である。本講義では、循環器の解剖、心電図、基礎医学、リスク管理を学ぶ。また、循環器疾患患者や合併症として循環器疾患を有する患者に対しての介入方法、リスク管理を学ぶことが本講義の目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「循環器の解剖、心電図」 一般目標 ① 循環器の解剖を理解する。 ② 心電図の基礎を理解する。	「循環器の解剖、心電図」 到達目標 ① 循環器の知識の必要性を理解できる。 ② 循環器の解剖を理解し、体循環、肺循環を説明できる。 ③ 心電図の装着方法を説明できる。 ④ 正常心電図の特徴を説明できる。	伊東 由教
2	後期	「不整脈」 ① 重症不整脈の理解する。 ② 不整脈の危険度を理解できる。 ③ 不整脈が発症した際の対応を理解できる。	「不整脈」 ① 重症不整脈を説明できる。 ② 様々な不整脈を心電図が読み取ることができる。 ③ 不整脈の危険度を理解できる。 ④ 不整脈が発症した際の対応方法を理解できる。	伊東 由教
3	後期	「心疾患」 ① 心疾患の病態、治療を理解できる。	「心疾患」 ① 心疾患の病態を説明できる。	伊東 由教
4	後期	② 心疾患のリスク管理を理解できる。 ③ 心疾患の理学療法を理解できる。	② 心疾患の治療、手術を理解し、説明できる。 ③ 心疾患のリスク管理が説明できる	
5	後期	④ 心疾患の理学療法を理解できる。	④ 心疾患のエコー、採決、胸部レントゲンなどの検査を説明できる。	

			<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 心疾患の呼吸状態を説明できる。 ⑥ 心疾患の理学療法を説明できる。 ⑦ 理学療法介入動画、写真を提示して、介入イメージをつかむことができる。 	
6	後期	<p>「大動脈疾患、理学療法評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大動脈疾患の病態、治療を理解できる。 ②動脈疾患のリスク管理を理解できる ③大動脈疾患の理学療法を理解できる。 ④循環器疾患の理学療法評価方法を理解できる。 	<p>「大動脈疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大動脈疾患の病態を説明できる。 ②大動脈疾患の治療、手術を理解し、説明できる。 ③大動脈疾患のリスク管理が説明できる ④大動脈疾患のエコー、採決、胸部レントゲンなどの検査を説明できる。 ⑤大動脈疾患の理学療法を説明できる。 ⑥理学療法介入動画、写真を提示して、イメージをつかむことができる。 ⑦循環器疾患の理学療法評価を理解し、説明できる。 	伊東 由教
7	後期			
8	後期	<p>「グループワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心疾患患者、大動脈患者の例題を出して、各種検査等から病態を把握して、理学療法プログラム立案を理解できる。 	<p>「グループワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心疾患患者、大動脈患者の例題を出して、各種検査等から病態を把握して、理学療法プログラム立案を説明できる。 	伊東 由教
9	後期	<p>「心臓リハビリテーション概論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心臓リハビリテーションの目的が理解できる。 ②循環器疾患のリスク管理が理解できる。 ③心臓リハビリテーションの実際が理解できる。 	<p>「心臓リハビリテーション概論」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①心臓リハビリテーションの対象・目的・禁忌が理解でき、有効性について説明ができる。 ②リスク層別化分類について理解ができる。 ③急性期、回復期、維持期の心臓リハビリテーションについて理解できる。 	大竹 浩史
10	後期	<p>「虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①虚血性心疾患とは何かを理解できる。 ②虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーションについて目的・方法を理解できる。 	<p>「虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①虚血性心疾患の分類・病態・合併症・治療について理解できる。 ②虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーションの目的について知り、一般的なりハビリテーションプログラムを理解する事ができる。 	大竹 浩史

11	後期	<p>「心不全に対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①心不全とは何かを理解できる。</p> <p>②心不全に対する心臓リハビリテーションについて目的・方法が理解できる。</p>	<p>「心不全に対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①心不全の分類・病態・治療について理解できる。</p> <p>②心不全に対する心臓リハビリテーションの目的について知り、一般的なリハビリテーションプログラムについて理解することができる。</p>	大竹 浩史
12	後期	<p>「心不全フレイルに対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①フレイルとは何か理解できる。</p> <p>②心不全にフレイルを合併した症例のリハビリテーションについて理解できる。</p>	<p>「心不全とフレイルに対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①フレイルやサルコペニア、カヘキシアについて理解できる。</p> <p>②フレイルの病態について理解できる。</p> <p>③フレイルの診断基準について理解ができる。</p> <p>④心不全にフレイルを合併した症例に対する心臓リハビリテーションの目的、実際について理解することができる。</p>	大竹 浩史
13	後期	<p>「循環器疾患に対する運動療法：講義と実習」</p> <p>①循環器疾患に対する運動療法の目的を理解できる。</p> <p>②プログラムを立案し、運動処方をする事ができる。</p>	<p>「循環器疾患に対する運動療法：講義と実習」</p> <p>①循環器疾患に対する運動療法の目的について理解することができる。</p> <p>②カルボーネンの式などを用い、運動プログラムを立案し、運動処方することができる。</p> <p>③有酸素運動を体験し、血圧・脈拍・呼吸数等をモニタリングすることができる。</p> <p>④運動時の生理学的反応について理解することができる。</p>	大竹 浩史
14	後期	<p>「心肺運動負荷試験：CPX から運動処方を考える」</p> <p>①CPX とは何かを理解することができる。</p> <p>②CPX を用いて運動処方について考える事ができる。</p>	<p>「心肺運動負荷試験：CPX から運動処方を考える」</p> <p>①CPX とは何か、適応、目的について理解することができる。</p> <p>②運動生理学を理解し、CPX を用いた運動処方について考える事ができる。</p>	大竹 浩史
15	後期	<p>「循環器疾患のリスク管理：グループワーク、まとめ」</p> <p>①症例からリスク管理を考える。</p> <p>②運動処方を行うことができる。</p>	<p>「循環器疾患のリスク管理：グループワーク、まとめ」</p> <p>①グループワークにて実際の症例から病態を考え、リスク管理の項目をあげる事ができる。</p>	大竹 浩史

	③これまでの知識を用い国家試験問題に挑戦する.	②グループワークにて運動プログラムを作成し、運動処方を行う事ができる. ③これまでの知識を用いて、国家試験問題を解くことができる.	
成績評価方法	科目試験 (100%)		
準備学習など	講義形式、グループワーク形式で講義を展開する予定です。 講義開始時に前回の内容の小テストを実施し、皆様の習熟度をチェックさせていただきます。		
留意事項	特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	代謝障害理学療法学
担当者	小関 裕二、林 尚宜
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	配布資料

授業概要と目的	
<p>糖尿病, 高脂血症, 高血圧, 肥満, CKD は互いに合併しやすく, 脳血管疾患, 心血管疾患の危険因子である. これらは, 脳血管障害, 整形疾患, 呼吸循環疾患など理学療法の主な対象疾患に合併することが多い. 本講義では, 主に糖尿病・CKD の概要とその重症度のとらえ方, リスク管理の方法などを説明した上で, 理学療法的評価法や治療法について講義する.</p> <p>なお, 理学療法士として, 病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「代謝総論」 ① 膵臓の構造と機能について理解する。 ② 腎臓の構造と機能について理解する。	「代謝総論～基礎知識～」 ① 膵臓の位置、大きさ、重さについて説明できる。 ② 主膵管、副膵管、総胆管について説明できる	林 尚宜

		③ 基礎代謝とエネルギー代謝について理解する。	③ 外分泌系と内分泌系それぞれの働きについて説明できる ④ 腎臓の位置、大きさ、重さについて説明できる。 ⑤ 腎臓の機能と関係するホルモンについて説明できる。 ⑥ 物質代謝（異化・同化）とエネルギー代謝（解糖・TCA回路）について説明できる。	
2	後期	「生活習慣病」 ① 生活習慣病の全体像について理解する。 ② 痛風について理解する。 ③ 脂質異常症について理解する。	「生活習慣病の病態と治療」 ① メタボリックシンドロームについて説明できる。 ② BMIと生活習慣病の関係、疾病合併率について説明できる。 ③ 動脈硬化とは何か説明できる。 ④ 関連する検査データについて説明できる。 ⑤ 痛風の病態、症状、治療について説明できる。 ⑥ 脂質異常症の病態、症状、治療について説明できる。	林 尚宜
3	後期	「糖尿病の病態」 ① 糖尿病の病態について理解する。 ② 糖尿病の予後や危険因子について理解する。	「糖尿病のしくみ」 ① GLUTについて説明できる。 ② 低血糖・高血糖になるしくみが説明できる。 ③ インスリン抵抗性、分泌障害について説明できる。 ④ 酸塩基平衡について説明できる。	林 尚宜
4	後期	「糖尿病の合併症」 ① 糖尿病性網膜症について理解する。 ② 糖尿病性腎症について理解する。 ③ 糖尿病性末梢神経障害について理解する。 ④ 血管障害について理解する。	「三大合併症」 ① 糖尿病性網膜症の症状と病態、リスク管理が説明できる。 ② 糖尿病性腎症の症状と病態、リスク管理が説明できる。 ③ 糖尿病性末梢神経障害の症状と病態、リスク管理が説明できる。 ④ 高血糖が及ぼす血管障害について説明できる。 ⑤ 高血糖による症状と低血糖による症状を説明できる。	林 尚宜

5	後期	<p>「糖尿病足病変」</p> <p>① 糖尿病足病変について理解する</p> <p>② 足病変に関係する検査について理解する</p> <p>③ 足部や足趾にかかるメカニカルストレスについて理解する</p>	<p>「糖尿病足病変の症状、リスク管理、治療」</p> <p>① 糖尿病足病変の発症機序について説明できる</p> <p>② 間欠性跛行・6Pなどの症状について説明できる</p> <p>③ ABI・PWVなどの検査について説明できる</p> <p>④ 足趾の変形について説明できる</p> <p>⑤ 足部にかかるメカニカルストレスと関節、筋、アーチの役割について説明できる</p>	林 尚宜
6	後期	<p>「糖尿病についてのまとめ（基礎）」</p> <p>① 膵臓、腎臓に関する解剖学、生理学的な知識をあらためて理解する。</p> <p>② 糖尿病に関しての原因・病態・症状についてあらためて理解する。</p> <p>③ 国家試験に出題されている範囲、問題を理解する。</p>	<p>「糖尿病基礎問題の復習・グループワーク」</p> <p>① 膵臓、腎臓に関する基礎問題について解答解説できる。</p> <p>② 糖尿病の病態に関する問題について解答解説できる。</p>	林 尚宜
7	後期	<p>「CKDについて」</p> <p>① CKDの病態把握ができる。 (保存期・HD・PD・移植)</p>	<p>「CKDについて」</p> <p>① CKDの病態について説明ができる。 (保存期・HD・PD・移植)</p>	小関裕二
8	後期	<p>「透析患者の合併症について」</p> <p>① 透析患者の合併症理解</p>	<p>「透析患者の合併症について」</p> <p>① 透析患者の合併症について説明ができる</p>	小関裕二
9	後期	<p>「CKDの運動療法について」</p> <p>① 保存期から透析期におけるリハビリについて理解する</p>	<p>「CKDの運動療法について」</p> <p>① CKD患者のリスク管理ができ、安全で効果的な運動療法設定ができる。</p>	小関裕二
10	後期	<p>「CKD運動療法のリスク管理」</p> <p>① CKD患者の運動療法におけるリスク管理を理解する</p>	<p>「CKD運動療法のリスク管理」</p> <p>① CKD患者の運動療法のリスク管理について説明ができる。</p>	小関裕二
11	後期	<p>「糖尿病の理学療法評価」</p> <p>① 糖尿病患者に対する理学療法評価の意義について理解する。</p> <p>② 糖尿病患者に対する理学療法評価の種類について理解する。</p>	<p>「糖尿病に対する理学療法評価の意義」</p> <p>① 糖尿病性末梢神経障害に対する、アキレス腱反射について説明できる。</p> <p>② 音叉を使用した振動覚検査について説明できる。</p> <p>③ Monofilamentを用いた足底圧覚評価について説明できる。</p>	林尚宜

		③ 糖尿病患者に対する理学療法評価の注意点について理解する。	④ なぜその理学療法評価を選択するのか説明できる。	
12	後期	「糖尿病の理学療法評価～演習～」 ① 糖尿病患者に対する理学療法評価を行うことができる。 ② 糖尿病患者に対する理学療法評価の注意点を説明できる	「糖尿病理学療法評価の演習」 ① 皮膚温、血管の触診が説明しながら実施できる。 ② 下肢挙上下垂テストが説明しながら実施できる。 ③ タッチテストが説明しながら実施できる。	林尚宜
13	後期	「糖尿病の運動療法」 ① 糖尿病の運動療法の必要性を理解する ② 糖尿病に対する運動療法の種類について理解する。 ③ 糖尿病に対する運動療法の効果について理解する。	「糖尿病に対する運動療法の意義」 ① 糖尿病に対する運動療法の意義について説明できる ② 有酸素運動の必要性について説明できる ③ レジスタンストレーニングの必要性について説明できる。 ④ 糖尿病に対する運動療法の注意点・リスク管理について説明できる。	林尚宜
14	後期	「糖尿病の運動療法～演習～」 ① 糖尿病患者に対する患者指導の必要性について理解する。 ② 糖尿病患者に対する患者指導の方法について理解する。	「患者指導」 ① 糖尿病患者への患者指導の必要性について説明できる。 ② 糖尿病患者に対する具体的な関わり方について説明できる。 ③ 動機付けとセルフエフィカシーとは何か説明できる。 ④ 行動変容ステージについて説明できる。 ⑤ 前熟考期・熟考期の指導ポイントについて説明できる。	林尚宜
15	後期	「糖尿病についてのまとめ（応用）」 ① 糖尿病患者に対する理学療法評価についてあらためて理解する。 ② 糖尿病患者に対する運動療法についてあらためて理解する。 ③ 国家試験に出題されている範囲、問題を理解する。	「糖尿病応用問題の復習・グループワーク」 ① 糖尿病患者に対する理学療法評価の問題について解答解説できる。 ② 糖尿病患者に対する運動療法の問題について解答解説できる。	林尚宜
成績評価方法		科目試験（100%）		

準備学習など	授業内にて口頭で説明している内容をしっかりメモをとること。 「ここが大事」、「国家試験に出題される」などの Keyword を逃さずマークしておくこと。
留意事項	特になし

学科・年次	理学療法科 2 学年
科目名	発達支援理学療法学
担当者	三宅 わか子
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	イラストでわかる小児理学療法学

授業概要と目的	
<p>小児の発達支援が必要な疾患の原因、全体像、評価について学び、具体的な事例をもとに理学療法及びその他の介入について提示する。また小児期から老人期までのウイメンズ・メンズヘルスにおける理学療法の理解を深める。</p> <p>学習到達目標としては、代表的疾患の脳性麻痺、運動発達遅滞、骨関節疾患、染色体異常、先天性神経筋疾患、発達性協調運動障害など発達にかかる理学療法について理解し説明できる。脳の CT、MRI 画像やその他必要なレントゲン画像、超音波エコー、動作解析画像、筋電図などの画像による評価についても代表的な病態像を読み取ることが出来るようにする。ウイメンズ・メンズヘルスにおける理学療法の役割と実際について説明できることが目標である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「人間発達全般」 一般目標 ① 人間発達を理解する。	「人間発達全般について」 到達目標 ① 人間発達全般について説明できる。	三宅わか子
2	後期	「脳性麻痺の概略」 一般目標 ① 定義、分離、発生率、原因、合併症、整形外科的問題、経過について理解する。	「脳性麻痺の概略について」 到達目標 ① 定義、分離、発生率、原因、合併症、整形外科的問題、経過について説明できる。	三宅わか子

3	後期	<p>「脳性麻痺の評価と治療」</p> <p>一般目標</p> <p>① 心身機能 身体構造レベル、活動・参加レベルの評価について理解する。</p> <p>② 理学療法、補装具と補助具、ホームプログラム、予後予測を理解する。</p>	<p>「脳性麻痺の評価と治療について」</p> <p>到達目標</p> <p>① 心身機能 身体構造レベル、活動・参加レベルの評価について説明できる。</p> <p>② 理学療法、補装具と補助具、ホームプログラム、予後予測を説明できる。</p>	三宅わか子
4	後期	<p>「重症心身障害児の評価と治療」</p> <p>一般目標</p> <p>① ポジショニング、呼吸障害、摂食嚥下障害、コミュニケーション、座位保持装置について理解する。</p>	<p>「重症心身障害児の評価と治療について」</p> <p>到達目標</p> <p>① ポジショニング、呼吸障害、摂食嚥下障害、コミュニケーション、座位保持装置について説明できる。</p>	三宅わか子
5	後期	<p>「低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療」</p> <p>一般目標</p> <p>① 低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療について理解する。</p>	<p>「低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療」</p> <p>到達目標</p> <p>① 低出生体重児・ハイリスク児の評価と治療について説明できる。</p>	三宅わか子
6	後期	<p>「発達支援理学療法の実技1（評価）」</p> <p>一般目標</p> <p>① 発達支援理学療法における評価を実践する。</p>	<p>「発達支援理学療法の実技1（評価）」</p> <p>到達目標</p> <p>① 発達支援理学療法における評価を実践できる。</p>	三宅わか子
7	後期	<p>「発達支援理学療法の実技2（治療）」</p> <p>一般目標</p> <p>① 発達支援理学療法における治療を実践する。</p>	<p>「発達支援理学療法の実技2（治療）」</p> <p>到達目標</p> <p>① 発達支援理学療法における治療を実践できる。</p>	三宅わか子
8	後期	<p>「染色体異常の代表的な疾患の概要と介入」</p> <p>一般目標</p> <p>① 染色体異常の代表的な疾患の概要を理解する。</p> <p>② 染色体異常の代表的な介入を理解する。</p>	<p>「染色体異常の代表的な疾患の概要と介入について」</p> <p>到達目標</p> <p>① 染色体異常の代表的な疾患の概要を説明できる。</p> <p>② 染色体異常の代表的な介入を説明できる。</p>	三宅わか子

9	後期	「筋ジストロフィー症の概要と介入・障害者スポーツについて」 一般目標 ① 筋ジストロフィー症の概要と介入について理解する。 ② 障害者スポーツについて理解する。	「筋ジストロフィー症の概要と介入・障害者スポーツについて」 到達目標 ① 筋ジストロフィー症の概要と介入について説明できる。 ② 障害者スポーツについて説明できる。	三宅わか子
10	後期	「小児整形外科疾患の概要と介入」 一般目標 ① 小児整形外科疾患の概要について理解する。 ② 小児整形外科疾患の介入について理解する。	「小児整形外科疾患の概要と介入について」 到達目標 ① 小児整形外科疾患の概要について説明できる。 ② 小児整形外科疾患の介入について説明できる。	三宅わか子
11	後期	「発達障害の範囲と特徴、介入」 一般目標 ① 発達障害の範囲と特徴について理解する。 ② 発達障害の介入について理解する。	「発達障害の範囲と特徴、介入について」 到達目標 ① 発達障害の範囲と特徴について説明できる。 ② 発達障害の介入について説明できる。	三宅わか子
12	後期	「ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識」 一般目標 ① 年代別の特徴と障害（概論）について理解する。	「ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識」 到達目標 ① 年代別の特徴と障害（概論）について説明できる。	三宅わか子
13	後期	「ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識」 一般目標 ① 代表的疾患と理学療法、予防理学療法について理解する。	「ウィメンズ・メンズヘルスの基礎知識」 到達目標 ① 代表的疾患と理学療法、予防理学療法について説明できる。	三宅わか子
14	後期	「症例検討1」 一般目標 ① 脳性麻痺児について症例検討を行い、理解を深める。	「症例検討1」 一般目標 ① 脳性麻痺児について症例検討を行い、理解を深めることができる。	三宅わか子
15	後期	「症例検討2」 一般目標 ① 発達障害児について症例検討を行い、理解を深める。	「症例検討2」 一般目標 ① 発達障害児について症例検討を行い、理解を深めることができる。	三宅わか子

成績評価方法	規定回数の 2/3 以上の授業参加と定期試験 100 点
準備学習など	予習復習を欠かさず行うこと。
留意事項	特になし

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	老年期理学療法学
担当者	奥地伸城
単位数（時間数）	2 単位（30 時間）
学習方法	講義形式
教科書・参考書	高齢者理学療法学テキスト 南江堂 監修 細田多穂

授業概要と目的
<p>我が国は世界に例を見ない早さで高齢化が進行しており、高齢者の医療・保健福祉に対するニーズは更に高まっています。複数の多様な問題を抱える高齢者の理学療法においては、身体機能や認知機能、精神・心理機能、生活機能、更に社会環境にまで及ぶ広い視点が必要です。この科目では、高齢者をイメージできる、加齢に伴う心身機能の変化を理解できる、理学療法を実施する上での留意点を理解できる、などを目的として行います。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「ライフステージと高齢者像」 一般目標 ①高齢者の基礎定義やおかれて いる現状を理解する	「老化とは」 到達目標 ①老化について説明できる ②高齢者の定義と年齢による分類について 説明できる ③老年期の発達課題を踏まえて「若い」の 受容について説明できる	奥地伸城

2	前期	「ライフステージと高齢者像」 一般目標 ①高齢者の基礎定義やおかれている現状を理解する	「高齢者の心理」 到達目標 ①平均寿命と健康寿命の差が持つ意味について説明できる ②サクセスフルエイジングに必要な条件について説明できる ③高齢者が抱く心理について説明できる	奥地伸城
3	前期	「加齢に伴う身体機能・精神機能変化」 一般目標 ①高齢者に理学療法を実施するために必要な加齢に伴う心身機能の変化について理解する	「高齢者の身体的特徴」 到達目標 ①加齢に伴う身体構造の変化が説明できる ②加齢に伴う運動機能変化が説明できる ③加齢に伴う感覚機能の変化が説明できる ④高齢者の摂食嚥下障害の特徴、誤嚥性肺炎、摂食嚥下機能評価、リハビリテーションについて説明できる	奥地伸城
4	前期	「加齢に伴う身体機能・精神機能変化」 一般目標 ①高齢者に理学療法を実施するために必要な加齢に伴う心身機能の変化について理解する	「高齢者の精神的特徴」 到達目標 ①加齢に伴う生理機能の特徴が説明できる ②加齢に伴う知能、記憶、感情、人格、生きがいの特徴が説明できる	奥地伸城
5	前期	「老年症候群」 一般目標 ①老年症候群が理学療法を実施する際の治療プログラムの立案、およびその進行に及ぼす影響について理解する	「高齢者疾患の特徴」 到達目標 ①老年症候群により生活機能の障害について説明できる ②老年症候群のⅠ群、Ⅱ群、Ⅲ群について説明できる ③代表的な老年症候群について、その発症メカニズムや症状について説明できる	奥地伸城
6	前期	「老年症候群」 一般目標 ①老年症候群の中でフレイルは理学療法の注目すべき1つであることについて理解する ②フレイルとサルコペニアの関連性について理解する	「代表的な老年症候群」 到達目標 ①フレイル・サルコペニアと低栄養との関係性を説明できる ②尿失禁・便失禁の種類とメカニズムについて説明できる	奥地伸城

7	前期	<p>「高齢者の生活機能評価」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の運動機能の評価方法を理解し、その特徴や注意点について理解する</p>	<p>「運動機能評価」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の運動機能評価方法について説明できる</p> <p>②高齢者の運動機能評価結果について説明できる</p> <p>③評価方法にあわせた準備ができる</p> <p>④高齢者の日常生活活動の評価補法について説明できる</p>	奥地伸城
8	前期	<p>「高齢者の生活機能評価」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の生活機能の評価する方法について理解し、その技術について理解する</p>	<p>「認知・精神機能評価」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の認知・精神機能の評価方法について理解する</p> <p>②介護者の介護負担をはじめとした生活環境の評価方法について説明できる</p> <p>③QOLの構造因子とその評価方法について説明できる</p>	奥地伸城
9	前期	<p>「高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項として、高齢者の一般的特徴や理学療法における高齢者、障害者のリスク管理について理解する</p>	<p>「高齢者の一般的特徴」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の一般的特徴を説明できる</p> <p>②高齢者の理学療法における陥りやすい症候やリスク管理を説明できる</p>	奥地伸城
10	前期	<p>「高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の機能状態によって、栄養管理や運動管理の方法が異なることを理解する</p> <p>②身体活動の維持・向上はどんな機能状態にある高齢者にとってもその機能や健康を維持するためにの重要な要件であることを理解する</p>	<p>「低・過栄養と栄養管理」</p> <p>到達目標</p> <p>①基礎代謝量とエネルギー消費量を、基本的な属性から推定できる</p> <p>②対峙している高齢者に適した運動機能や身体活動を向上させる方法を提案できる</p>	奥地伸城

11	前期	<p>「高齢者の悪性腫瘍と理学療法」 一般目標</p> <p>①高齢な悪性腫瘍患者の生活機能改善や QOL の維持・向上のために、その障害像や病態、症状、治療法についての理解を含め、患者にとって最適な理学療法プログラムの立案・遂行機能を習得する</p>	<p>「疾患の概要」 到達目標</p> <p>①がんの障害増や症状、特徴について説明できる</p> <p>②がんの治療について説明できる</p> <p>③がん患者に対する理学療法について説明できる</p>	奥地伸城
12	前期	<p>「高齢者の悪性腫瘍と理学療法」 一般目標</p> <p>①高齢な悪性腫瘍患者の生活機能改善や QOL の維持・向上のために、その障害像や病態、症状、治療法についての理解を含め、患者にとって最適な理学療法プログラムの立案・遂行機能を習得する</p>	<p>「理学療法の概要」 到達目標</p> <p>①がん患者に対する理学療法の禁忌事項について説明できる</p> <p>②高齢がん患者に対する評価と治療を説明できる</p>	奥地伸城
13	前期	<p>「地域高齢在住者と理学療法」 一般目標</p> <p>①介護保険サービスにて提供されるリハビリテーションにおいて、居宅サービス及び施設サービスにおける理学療法士の役割と多職種連携にて行われるリハビリテーションマネジメントの重要性を理解する</p>	<p>「リハビリテーションマネジメントの概念」 到達目標</p> <p>①介護保険サービスで提供されるリハビリテーションの種類と役割を説明できる</p> <p>②適切なサービス提供の観点からリハビリテーションにおける EPDCA サイクルを説明できる</p> <p>③介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションそれぞれの業務内容や役割を説明できる</p>	奥地伸城
14	前期	<p>「高齢者の健康寿命の延伸」 一般目標</p> <p>①高齢者の転倒、骨折の現状と課題を理解し、予防法について考察する</p> <p>②認知症の現状と課題を理解し、予防法について理解する</p>	<p>「高齢社会の現状」 到達目標</p> <p>①転倒、骨折の発生原因について説明できる</p> <p>②認知症の行動心理症状 (BPSD) とその発現原因について説明できる</p>	奥地伸城

15	前期	「まとめ」 一般目標 ①これまでの授業のポイントを理解する	「まとめ」 到達目標 ①これまでの授業ポイントを説明できる	奥地伸城
成績評価方法		期末試験（80%）、提出物（20%）		
準備学習など		特になし		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	スポーツ理学療法演習
担当者	小川祐太
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	演習，グループワーク
教科書・参考書	配布資料

授業概要と目的
<p>様々なスポーツ外傷，障害の発生機序と病態を概説するとともに，代表的なスポーツ傷害に対する理学療法の実際について学習する。また，傷害予防の観点からスポーツ現場で行われているメディカルチェック，コンディショニング，テーピングなどの手法の実際を学ぶ。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「スポーツ傷害に応急処置①」 一般目標 ① スポーツ傷害に対する応急処置として，RICE 処置の基礎を理解する。 ② RICE 処置の各種方法を理解する。	「RICE 処置を実践する」 到達目標 ① RICE 処置の方法を説明できる。 ② アイシングを作成できる。	小川 祐太

2	後期	<p>「スポーツ傷害に応急処置②」</p> <p>一般目標</p> <p>① スポーツ傷害に対する応急処置として、RICE 処置の基礎を理解する。</p> <p>② RICE 処置の各種方法を理解する。</p>	<p>「RICE 処置を実践する」</p> <p>到達目標</p> <p>① 弾性包帯を扱うことができる。</p>	小川 祐太
3	後期	<p>「肩関節脱臼①」</p> <p>一般目標</p> <p>① ラグビーでの疫学調査と動作解析を理解する。</p> <p>② 肩関節脱臼の外科的治療を理解する。</p>	<p>「ラグビーにおける肩関節脱臼と治療」</p> <p>到達目標</p> <p>① ラグビー競技を説明できる。</p> <p>② ラグビーにおける肩関節脱臼の受傷原因を説明できる。</p> <p>③ 肩関節脱臼に対する外科的治療を説明できる。</p>	小川 祐太
4	後期	<p>「肩関節脱臼②」</p> <p>一般目標</p> <p>① ラグビーのコンディショニング、傷害予防を理解する。</p>	<p>「ラグビーのコンディショニング紹介」</p> <p>到達目標</p> <p>① CPY を体験し、実践できる。</p>	小川 祐太
5	後期	<p>「投球障害」</p> <p>一般目標</p> <p>① 投球障害肩の疫学・病態について理解する。</p> <p>② 投球障害肘の疫学・病態について理解する。</p> <p>③ 投球障害の外科的治療を理解する。</p>	<p>「投球障害」</p> <p>到達目標</p> <p>① 投球によって起こりうる傷害について説明できる。</p> <p>② 投球障害に対する外科的治療を説明できる。</p>	小川 祐太
6	後期	<p>「メディカルチェック演習①」</p> <p>一般目標</p> <p>① 投球障害に対するメディカルチェックの概要を理解する。</p> <p>② 投球障害に対するメディカルチェックの方法を理解する。</p> <p>③ メディカルチェックの評価項目について理解する。</p>	<p>「メディカルチェックの練習」</p> <p>到達目標</p> <p>① メディカルチェックの評価項目を実践できる。</p>	小川 祐太
7	後期	<p>「メディカルチェック演習②」</p> <p>一般目標</p> <p>① 投球障害に対するメディカルチェックを実践する。</p>	<p>「メディカルチェックの実践」</p> <p>到達目標</p> <p>① メディカルチェックの項目を列挙することができる。</p>	小川 祐太

			② メディカルチェックを実践することができる。	
8	後期	「メディカルチェック演習③」 一般目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックを実践する。	「メディカルチェックの実践」 到達目標 ① メディカルチェックを実践することができる。	小川 祐太
9	後期	「メディカルチェック演習④」 一般目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックの実践結果を表やグラフにまとめる。	「メディカルチェックのまとめ」 到達目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックの実践結果を表やグラフにまとめることができる。	小川 祐太
10	後期	「メディカルチェック演習⑤」 一般目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックの実践結果を表やグラフにまとめる。	「メディカルチェックのまとめ」 到達目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックの実践結果を表やグラフにまとめることができる。	小川 祐太
11	後期	「メディカルチェック演習⑥」 一般目標 ① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点を抽出、アプローチを考える。 ② グループの総括として、用紙にまとめる。	「メディカルチェックの実践」 到達目標 ① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点を抽出し、アプローチを考えることができる。	小川 祐太
12	後期	「メディカルチェック演習⑦」 一般目標 ① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点を抽出、アプローチを考える。 ② グループの総括として、用紙にまとめる。	「メディカルチェックの実践」 到達目標 ① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点を抽出し、アプローチを考えることができる。	小川 祐太
13	後期	「メディカルチェック演習⑧」 一般目標 ① 各グループの問題点に対するチームアプローチの方法を発表する。	「メディカルチェックの成果発表」 到達目標 ① 各グループの問題点に対するチームアプローチの方法を発表でき、質疑応答がスムーズにできる。	小川 祐太
14	後期	「メディカルチェック演習⑨」 一般目標	「メディカルチェックの実践」 到達目標	小川 祐太

		① 投球障害に対するメディカルチェックで列挙した問題点に対するプログラム実践をする。 ② プログラム実践後の評価を行い、効果判定をする。	① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点に対するプログラムを実践することができる。	
15	後期	「メディカルチェック演習⑩」 一般目標 ① 投球障害に対するメディカルチェックで列挙した問題点に対するプログラム実践をする。 ② プログラム実践後の評価を行い、効果判定をする。	「メディカルチェックの実践」 到達目標 ① メディカルチェックの結果からグループとしての問題点に対するプログラムを実践することができる。	小川 祐太
成績評価方法		適宜、授業内で課題を課すため、課題で成績評価を行う。		
準備学習など		スポーツ分野への就職を考えている方は、十分に復習を行うこと。		
留意事項		1回目の授業でアイシングの作成（模擬）を行うため、透明な袋と小さなハンカチタオルを準備すること。適宜パソコンが必要になるため、準備をしておくこと。 実技を行うことが多いため、動きやすい服装で受講していただきたい。		

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	日常生活活動学演習Ⅱ
担当者	小出 悠介
単位数（時間数）	1単位 （30時間）
学習方法	講義形式 グループワーク
教科書・参考書	PTOT ビジュアルテキスト ADL 羊土社

授業概要と目的
<p>本講義では取り扱う疾患についての概要や活動制限，日常生活動作を学ぶ。</p> <p>本講義の目的は各疾患における概要や機能障害の特徴を理解し，それに応じた日常生活活動を理解することである。そして，その知識や技術を用い，実際に日常生活活動の指導や援助が出来るようになることである。また，臨床現場で多く用いられる FIM や BI といった日常生活活動評価指標を理解し，実際に採点し，客観的な評価ができるようになることも目的である。</p> <p>なお，理学療法士として，病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「脳卒中片麻痺①」 グループワークを通して、脳卒中片麻痺患者の障害やどのようなことができなくなるかを考える。脳卒中片麻痺患者の概要や機能解剖学的な障害について述べるができる。	「脳卒中片麻痺の概要」 ① グループワークで脳卒中片麻痺患者の障害のイメージを述べるができる。 ② 脳卒中片麻痺の概要を説明できる。 ③ 脳卒中片麻痺の機能障害を解剖学的に理解し、説明することができる。 ④ 機能障害から ADL 障害につながる具体的なイメージがつくようになる。	小出 悠介
2	前期	「脳卒中片麻痺②」 脳卒中片麻痺患者の起居・床上・移乗動作について説明する。動作を理解し、実際に模倣や指導ができるようになる。	「脳卒中片麻痺の ADL 指導 (起居・床上・移乗動作)」 ① 脳卒中片麻痺患者の起居・床上・移乗動作の一般的な方法を理解する。 ② 起居・床上・移乗動作手順について人に説明できるようになる。 ③ 実際に起居・床上・移乗動作について模倣できるようになる。	小出 悠介
3	前期	「脳卒中片麻痺③」 脳卒中片麻痺患者の食事・入浴・移動動作について説明する。動作を理解し、実際に模倣や指導ができるようになる。	「脳卒中片麻痺の ADL 指導 (食事・入浴・移動動作)」 ① 脳卒中片麻痺患者の食事・入浴・移動動作の一般的な方法を理解する。 ② 食事・入浴・移動動作手順について人に説明できるようになる。 ③ 利き手交換について理解する。 ④ 実際に起居・床上・移乗動作について模倣できるようになる。 ⑤ 脳卒中片麻痺に関する問題が解けるようになる。	小出悠介
4	前期	「パーキンソン病①」 パーキンソン病の疾患概要や特徴的な症状を理解し、説明できるようになる。	「パーキンソン病の概要」 ① グループワークを通してパーキンソン病患者がイメージできる。 ② パーキンソン病の概要を理解する。 ③ パーキンソン病の特徴的な症状を述べることができる。 ④ 大脳・基底核間での障害概要を知る。	小出悠介

			⑤ Hoehn&Yahr の重症度分類について理解し、各ステージでの特徴を説明できる。	
5	前期	「パーキンソン病②」 パーキンソン病の ADL 障害の特徴を理解し、それに応じた ADL の指導方法を理解し、説明できるようになる。	「パーキンソン病の ADL 指導」 ① パーキンソン病患者の一般的な ADL 動作方法を理解する。 ② 入浴についての注意点を述べることができる。 ③ 薬剤の長期服用から生じる ADL 障害を理解し、述べるができる。 ④ パーキンソン病に関する問題を解くことができる。	小出悠介
6	前期	「大腿骨頸部骨折」 大腿骨頸部骨折・転子部骨折やその手術療法後の ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。	「大腿骨頸部骨折の概要と ADL 指導」 ① 大腿骨頸部骨折・転子部骨折について理解する。 ② 人工関節の術式を理解し、禁忌動作について知り、説明できるようになる。 ③ 実際に禁忌動作に留意した ADL 動作指導ができるようになる。 ④ 大腿骨頸部骨折や人工関節についての問題が解けるようになる。	小出悠介
7	前期	「関節リウマチ」 関節リウマチの概要を知る。さらに関節保護の原則を意識した ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。	「関節リウマチの概要と ADL 指導」 ① リウマチの病態について知る。 ② リウマチの病態から ADL 障害にどのようなつながるかを理解する。 ③ ADL 指導の基本である、関節保護の原則を説明できる。 ④ 各関節における関せる保護の具体的な ADL 指導が述べられる。 ⑤ リウマチの問題が実際に解けるようになる。	小出悠介
8	前期	「膝関節疾患/下腿骨折/認知症」 変形性膝関節症や下腿骨折、その手術療法後の ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。 認知症の概要と認知症患者の対応方法について知る。	「膝関節疾患/下腿骨折/認知症の ADL とその留意点」 ① 膝関節疾患・下腿骨折・認知症の概要について知る。 ② 膝関節疾患・下腿骨折の ADL の留意点を理解する。 ③ 認知症患者の対応方法やコミュニケーション方法について知る。	小出悠介

9	前期	<p>「脊髄損傷①」</p> <p>脊髄の機能解剖を復習し、再確認をする。そこから、脊髄損傷の概要や損傷高位について理解する。また、脊髄損傷の各評価指標についても説明できるようになる。</p>	<p>「脊髄損傷の機能障害」</p> <p>① 脊髄の機能解剖を再確認する。 ② 脊髄損傷の概要を理解する。 ③ 脊髄損傷の神経学的損傷高位について理解する。 ④ 脊髄損傷の ASIA や Zancolli 分類について理解し、どのようなものか説明できる。</p>	小出悠介
10	前期	<p>「脊髄損傷②」</p> <p>頸髄損傷・胸髄損傷の各髄節における作用筋や ADL 上限, ADL 方法について理解し, 説明できるようになる。</p>	<p>「頸髄損傷・胸髄損傷の ADL」</p> <p>① 頸髄損傷・胸髄損傷における作用筋や出来る運動, 上限となる ADL について理解し, 説明できるようになる。 ② 損傷高位に合わせた上肢装具や車いすの選択ができるようになる。 ③ 各 ADL 動作の手順や方法, 注意点を理解し説明できる。</p>	小出悠介
11	前期	<p>「脊髄損傷③」</p> <p>腰髄損傷以下の各髄節における作用筋や ADL 上限, ADL 方法, 歩行パターンについて理解し, 説明できるようになる。</p>	<p>「腰髄損傷以下の ADL」</p> <p>① 腰髄損傷以下の作用筋や出来る運動, 上限となる ADL について理解し, 説明できるようになる。 ② 損傷高位に合わせた歩行補装具や歩行パターンの選択ができるようになる。 ③ 各 ADL 動作の手順や方法, 注意点を理解し説明できる。 ④ 脊髄損傷の問題を解くことができる。</p>	小出悠介
12	前期	<p>「呼吸器疾患」</p> <p>呼吸器疾患について知り, 呼吸器疾患の ADL 指導や注意点について理解し, 説明できるようになる。</p>	<p>「呼吸器疾患の概要と ADL 指導」</p> <p>① 呼吸器疾患 (閉塞性・拘束性疾患) について知る。 ② 呼吸器疾患の ADL 制限の原因について理解し, 説明できるようになる。 ③ 呼吸器疾患の ADL 評価指標について知る。 ④ 呼吸器疾患の ADL 指導や注意点について理解し, 説明できる。 ⑤ 呼吸器疾患についての問題を解くことができる。</p>	小出悠介

13	前期	「循環器疾患」 循環器疾患について知り、循環器疾患の ADL 指導や注意点について理解し、説明できるようになる。	「循環器疾患の概要と ADL 指導」 ① 心不全について知る。 ② 循環器疾患の ADL 制限の原因について理解し、説明できるようになる。 ③ NYHA や作業強度について知る。 ④ 循環器疾患の ADL 指導や注意点について理解し、説明できる。 ⑤ 循環器疾患についての問題を解くことができる。	小出悠介
14	前期	「BI・FIM（運動項目）」 BI の特徴を知り、採点を出来るようになる。 FIM の特徴と各項目の採点定義を理解し、採点できるようになる。	「BI・FIM の特徴と採点方法」 ① BI の特徴を知る。 ② BI の評価表を使用し、採点できるようになる。 ③ FIM（運動項目）の特徴を知る。 ④ FIM の運動項目について説明プリントを見ながら採点できる。 ⑤ 移動・移乗・階段の項目についてはプリントを見ることなく採点できる。	小出悠介
15	前期	「FIM（認知項目）」 FIM の特徴と各項目の採点定義を理解し、採点できるようになる。	「FIM の特徴と採点方法」 ① FIM（認知項目）の特徴を知る。 ② FIM の認知項目について説明プリントを見ながら採点できる。 ③ BI・FIM についての問題を解くことができる。	小出悠介
成績評価方法		科目終了試験（90点） 授業態度（10点）		
準備学習など		サブノートを配布し、各講義テーマのまとめをします。しっかりと復習をして、国家試験問題に慣れておきましょう。		
留意事項		授業態度や出席状況を評価に加味します。		

学科・年次	理学療法学科 2年次
科目名	義肢装具演習
担当者	石井 寛隆
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・演習・実技
教科書・参考書	「義肢装具学」第4版 医学書院

授業概要と目的
<p>義肢とは切断により四肢の一部を欠損した場合に、もとの手足の形態又は機能を復元するために装着、使用する人工の手足。</p> <p>装具とは、病気やケガなどにより四肢・体幹に機能障害を生じたときに、治療や症状の軽減を目的として使用する補助器具。</p> <p>上記義肢・装具に関する基本的な知識を獲得し、臨床での適応疾患、使用方法についての理解を目的とする。</p> <p>現役の義肢装具士が、臨床現場での実情も交えつつ、教科書の内容に沿って解説する。</p> <p>※義肢装具士は法律上、「医師の指示の下に、義肢及び装具の装着部位の採型並びに義肢及び装具の製作及び身体への適合を行うことを業とする者」</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「コメディカルスタッフの一員としての義肢装具士とのかかわりを理解する」 基礎知識の確認（小テスト）	「義肢装具士とは何かを説明できる」 ① これから学ぶ義肢装具学についておおまかに説明できる	石井寛隆
2	通年	「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法」 ① 義肢装具の支給体系を理解する ② 保険請求を理解する ③ 費用の算定方法を理解する	「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法の説明できる」 ① 更生用、治療用の違いを説明できる ② 保険の種類、請求先、自己負担について説明できる ③ 費用の算定方法を理解できる	石井寛隆
3	通年	「頸椎装具」「体幹装具」 一般目標 体幹部に用いる体幹装具について学び、脊椎疾患との関りを理解する。	「各種体幹装具の形状・機能について学ぶ」 到達目標 ① 臨床で用いられる体幹装具の名称、形状、機能を説明することができる。 ② 各種疾患に対して、どの装具が適切なのか、考察することができる。	石井寛隆

			③ 各種脊椎疾患に対して、どの体幹装具が適切なのか考察することができる。	
4	通年	「上肢装具概論」 一般目標 上肢装具の種類、形状、機能について理解する。	「上肢装具の形状・機能について学ぶ」 到達目標 ① 上肢装具の種類や適応疾患について理解し、説明することができる。	石井寛隆
5	通年	「上肢装具」 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」①トレース作成	「上肢装具」① 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」	石井寛隆
6	通年	「上肢装具」 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」②モールド	「上肢装具」② 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」	石井寛隆
7	通年	「上肢装具」 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」③仕上げ、チェックアウト	「上肢装具」③ 一般目標 「スプリント製作を通じて姿勢、目的を理解する」	石井寛隆
8	通年	「下肢装具概論」 一般目標 理学療法に用いられることが多い下肢装具について、種類や形状、適応疾患について大まかに理解する。	「HKAFO、KAFO、AFO、KO、HO、FOの違い、種類について学ぶ」 到達目標 ① 臨床で理学療法に用いられる各種下肢装具のイメージを、大まかにではあるが把握することができる。 ② 形状による名称の違いを理解し、分類を説明できる。	石井寛隆
9	通年	「下肢装具の構成要素」 一般目標 下肢装具の構造について学び、使用される各種パーツについての知識を身につける。	「股継手、膝継手、足継手などの下肢装具構成部品について学ぶ」 到達目標 ① 各継手の機能について理解し、説明することができる。 ② 各継手の設定位置を理解し、図説することができる。	石井寛隆
10	通年	「一般的な疾患に用いる下肢装具」 一般目標	「骨折や靭帯損傷など、一般的な整形疾患に用いられるAFOや膝装具について学ぶ」 到達目標	石井寛隆

		一般的な整形疾患に用いられる下肢装具について、種類や機能を理解する。	① 整形疾患に用いられる下肢装具の適応について理解し、説明することができる。 多岐にわたる下肢装具の使い分けについて、対比することができる。	
11	通年	「足底装具」 一般目標 アーチサポートや各種ウェッジを用いた足底装具の効果を理解する。 フットプリントを使用して、変形、アライメント等を理解する。	「足部疾患に用いられる足底装具の機能について、足根骨の機能解剖も踏まえて学習する」 到達目標 ① 各種足部疾患に対応する足底装具について説明することができる。 足底装具が足根骨に及ぼす影響と、その後の効果について考察し、考えを述べることができる。	石井寛隆
12	通年	「靴型装具」「装具学まとめ」 一般目標 靴型装具についての知識を身につける。 また、前半講義で学んだ装具学に理解できていない部分を明らかにする。	「靴型装具と通常の靴との違いを学び、靴型装具によって得られる効果を学ぶ」 到達目標 ① 靴型装具が適応となる下肢の疾患についての理解を深め、靴型装具装着時の改善点を述べる。 ② 靴の補正の種類と形状、機能を理解し、適応疾患に当てはめることができる。	石井寛隆
13	通年	「障害模擬装具を装着して障害者が何に不自由を感じているのかを知ることにより何を補助すればQOLの向上に繋がるのかを理解する」	① 障害者に寄り添った理学療法、装具の処方を行うことができる	石井寛隆
14	通年	「ギプス固定」体験 一般目標 ギプス固定を体験し実際にギプスカット、シャーレを作成する。 2 関節固定の原理を理解する。	2 関節固定の原理を理解して説明できる。 ①ギプス off 後の関節拘縮の仕組みを理解して理学療法に应用できる。	石井寛隆
15	通年	「義肢学概論」 一般目標 各種義手、義足について、大まかに理解し、義肢全体のイメージを持ち、装具との違いを明らかにする。	「義足と義手からなる義肢について、実際の使用画像などを用いて学ぶ」 到達目標 ① 装具と義肢の違い、義手と義足の違いを説明することができる。 ② 現在よく用いられている義肢の形状、機能について理解し、説明することができる。	石井寛隆

16	通年	「義手」 一般目標 能動義手、作業用義手、装飾用義手についての知識を身につける。	「対外力源を用いない一般的な義手について、実物を参照しながら学ぶ」 到達目標 ① 各切断レベルに応じたソケットタイプを理解し、述べることができる。 ② 能動、作業用、装飾用の義手を対比し、用いられる場面についての的確に答えることができる。	石井寛隆
17	通年	「下腿義足の構造」 一般目標 ソケット・支持部・継手部・足部で構成される下腿義足の基本的な知識を身につける。	「下腿切断に用いる下腿義足の構造を、実物を用いて学ぶ」 到達目標 ① 骨格構造と殻構造の違いを説明することができる。 ② 下腿義足の基本構造を理解し、述べる ことができる。 下腿義足に使われるソケットについて学ぶ	石井寛隆
18	通年	「義肢装着前訓練（ソフトドレッシング）を理解する」	ソフトドレッシングの方法を学び成熟した断端形成を行うことができる	石井寛隆
19	通年	「下腿義足・足部」 一般目標 義足に用いられる足部パーツについての知識を身につける	「義足に用いられる足部パーツに求められる機能について学習し、各種足部の特色についての知識を深める」 到達目標 ① 義足歩行において足部パーツが備えるべき機能を理解し、述べる ことができる。 ② 単軸・多軸・SACH・エネルギー蓄積型足部の違いを理解し、適応する使用場面を区別することができる。	石井寛隆
20	通年	「下腿義足・アライメントと下腿義足を用いた歩行」 一般目標 下腿義足のアライメントを理解し、下腿義足の異常歩行について考察する	「下腿義足のアライメントについて学び、アライメントが及ぼす歩行への影響について考察する。」 到達目標 ① 義足にとってのアライメントとは何かを説明することができる。 ② PTB 下腿義足のベンチアライメントを理解し、図説することができる。 ③ アライメントによる異常歩行を考察し、どうすれば解決するのかを説明することができる	石井寛隆

21	通年	<p>「大腿義足の構造」</p> <p>一般目標</p> <p>ソケット・支持部・膝継手部・足部で構成される大腿義足の基本的な知識を身につける。</p>	<p>「大腿切断に用いる大腿義足の構造を、実物を用いて学ぶ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 骨格構造と殻構造の違いを説明することができる。</p> <p>② 大腿義足の基本構造を理解し、述べることができる。</p>	石井寛隆
22	通年	<p>「大腿義足・ソケット」</p> <p>一般目標</p> <p>大腿義足のソケットについての知識を身につけ、体重支持・自己懸垂の仕組みを理解する。</p>	<p>「大腿義足に使われるソケットについて学ぶ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 四辺形ソケット、IRCソケットの体重支持理論を理解し、なぜ大腿義足で立つことや、歩行することができるのかを説明することができる。</p>	石井寛隆
23	通年	<p>「大腿義足・アライメントと大腿義足を用いた歩行」</p> <p>一般目標</p> <p>大腿義足のアライメントを理解し、大腿義足の異常歩行について考察する</p>	<p>「大腿義足のアライメントについて学び、アライメントが及ぼす歩行への影響について考察する。」</p> <p>到達目標</p> <p>① 大腿義足のベンチアライメントを理解し、図説することができる。</p> <p>② IFAについて理解し、なぜそれらが必要なのか説明できる。</p> <p>③ アライメントによる異常歩行を考察し、どうすれば解決するのかを説明することができる。</p>	石井寛隆
24	通年	<p>「サイム義足・膝義足」</p> <p>一般目標</p> <p>果義足であるサイム義足・膝義足について、他の義足との違いを交えて理解する。</p>	<p>「果義足特有の特徴について、実物の画像を参照に学ぶ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 離断による断端部の特徴について、述べることができる。</p> <p>② 離断による断端に適合するために、義足が備えるべき機能を説明することができる。</p>	石井寛隆
25	通年	<p>「義肢学まとめ」</p> <p>「国試問題実践練習」</p> <p>一般目標</p> <p>義足の構成部品、歩行時の特徴について理解する。</p>	<p>①義足の基本的な各構成要素と機能について説明することができる。</p>	石井寛隆

26	通年	「福祉用具について」 「車いす」構成部品・操作方法について理解する。 「杖」の種類を理解して、適切な高さに長さを調整できる。	① 福祉用具 13 品目。要介護、要支援を理解し説明できる ② 車いすの構成部品を説明でき適切な操作ができる ③ 杖の種類、目的を理解し高さを合わせることができる。	石井寛隆
27	通年	「下肢装具製作を通じて姿位、目的を理解する」 陰性モデル作成、採型を理解する	「下肢装具製作を通じて姿位、目的を説明できる」 ①採型方法を理解し陰性モデルを作成することができる	石井 寛隆
28	通年	陽性モデルとは何か理解する	①陽性モデル修正の方法を学び骨突起部の除圧を理解し説明できる	石井 寛隆
29	通年	装具仕上げ	①適切なトレース、採寸方法を理解し、実践できる ②熱可塑性樹脂の特性を理解しモールドイング手技を行うことができる	石井 寛隆
30	通年	チェックアウト、適合を相対評価する	①チェックアウトを通じて問題点を見つけ客観的に判断して改善することができる	石井 寛隆
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・科目試験 70% (試験 85 点、成果物 15 点) ・学習への意欲・レポート 30% 		
準備学習など		事前学習は特に必要ありません 実技の際は、汚れてもよい服装と爪を短くしてくる。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法学科 2 年次
科目名	徒手理学療法演習
担当者	田中和彦、加古誠人
単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間)
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	スライド

授業概要と目的	
<p>前半は整形外科領域における徒手理学療法の概要、関節可動域制限、および骨折についての知見を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業概要は、事前に講義内容を提示し、講義では座学にて各関節の機能解剖と疾患に関する病態、評価、および治療の知見と技術を体験する。また徒手理学療法は、理学療法士による直接的理学療法手技の総称であり運動療法に包含される。理学療法士は、より即効性のある効果的(確実)な治療が求められ、その信頼性の確立と向上が必要となっている。なかでも痛み、関節可動域制限、筋力低下が主な治療対象となるが、その治療方針を決定できる評価法が必要であり、過用、誤用の防止、至適運動量、適切な治療、安静度の決定、治療対象を明確にして治療計画を立案し、運動療法を実施することとなる。そこで、治療技術の選択肢を多く持つ必要があり、治療技術の一つに徒手理学療法が挙げられる。骨運動学と関節運動学に基づいた評価・治療を学び、身体運動学を理解するとともにその治療法を知ることを目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「関節可動域制限について学ぶ(1)」 一般目標 徒手理学療法の概要について理解する	「徒手理学療法の概論、関節の構造、運動学について学ぶ」 到達目標 徒手理学療法の概要・関節の構造・動きを説明できる	田中 和彦
2	通年	「関節可動域制限について学ぶ(2)」 一般目標 関節可動域制限の要因および病態について理解する	「関節可動域制限の概論について学ぶ」 到達目標 関節可動域制限の要因および病態について説明できる	田中 和彦
3	通年	「骨折における徒手理学療法について学ぶ(1)」 一般目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について理解する	「骨折における徒手理学療法について学ぶ」 到達目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について説明できる	田中 和彦
4	通年	「骨折における徒手理学療法について学ぶ(2)」 一般目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について理解する	「骨折における徒手理学療法について学ぶ」 到達目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について説明できる	田中 和彦
5	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法(1)」 一般目標	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標	田中 和彦

		基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	
6	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法(2)」 一般目標 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
7	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法(3)」 一般目標 ① 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
8	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法(4)」 一般目標 ① 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
9	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法(1)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
10	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法(2)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
11	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法(3)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦

12	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法（4）」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
13	通年	「足関節疾患に対する徒手理学療法（1）」 一般目標 ① 基本的な足関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な足関節疾患についての知見を広め、足関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
14	通年	「足関節疾患に対する徒手理学療法（2）」 一般目標 基本的な足関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な足関節疾患についての知見を広め、足関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
15	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法（1）」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
16	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法（2）」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
17	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法（3）」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
18	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法（4）」 一般目標	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標	田中 和彦

		基本的な肩関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	基本的な肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	
19	通年	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法（1）」 一般目標 基本的な肘・手関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な肘・手関節疾患についての知見を広め、肘・手関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
20	通年	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法（2）」 一般目標 基本的な肘・手関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な肘・手関節疾患についての知見を広め、肘・手関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
21	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（1）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「腰部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な腰部疾患についての知見を広め、腰部疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
22	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（2）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「腰部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な腰部疾患についての知見を広め、腰部疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
23	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（3）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「整形外科領域における徒手理学療法の概論、関節の構造、運動学について学ぶ」 到達目標 徒手理学療法の概要・関節の構造・動きを説明できる	加古誠人
24	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（4）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
25	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（3）」 一般目標	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標	加古誠人

		基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	臨床場面で関わる膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	
26	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（4）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節足部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる足関節足部疾患についての知見を広め、足関節足部疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
27	通年	「症例検討と徒手理学療法（1）」 一般目標 これまでのことを踏まえ、症例検討および実技の演習	「脊椎疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる脊椎疾患についての知見を広め、脊椎疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
28	通年	「症例検討と徒手理学療法（2）」 一般目標 これまでのことを踏まえ、症例検討および実技の演習	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
29	通年	「整形外科領域における徒手理学療法について学ぶ」 一般目標 徒手理学療法の概要について理解する	「肘関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる肘関節疾患についての知見を広め、肘関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
30	通年	「各論；股関節に対する徒手理学療法」 一般目標 股関節の構造的特徴および徒手理学療法について理解する	「モデルケースに対する徒手的理学療法の実施」 到達目標 臨床場面を想定し、症例を提示し、問題点の抽出と介入方法の立案することができる。	加古誠人
成績評価方法		科目試験		
準備学習など		準備学習は事前に講義内容を提示します。 実技を行うため動きやすい服装で参加をお願いします。 講義形式、治療法紹介、実技形式と様々な講義を展開する予定です。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	障害スポーツ演習
担当者	林 尚宜
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	教科書を使用した講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応 （公財）日本障がい者スポーツ協会 ぎょうせい

授業概要と目的
<p>健常者のスポーツと障がい者のスポーツ、どちらであろうと関係なく、指導者としての資質が求められる。障がい者スポーツとは何か、歴史やその背景などを含めて理解する。また、同時に実際に障がい者の方と触れ合うことで、コミュニケーションや生活の苦悩、生きがいなど様々な理解を深める。障がい者スポーツ指導員など、関連する資格や制度についても学習する。また、障がいの種類や程度を理解し、各障がいの特性に応じた配慮や工夫、クラス分けなどについても学ぶ。</p> <p>なお、障がい者スポーツ指導員中級および日本ボッチャ協会公認審判資格C級をもち、臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」 一般目標 ①スポーツのインテグリティとはなにか理解する ②指導者に求められる資質について理解する ③障がい者スポーツ指導員の役割について理解する ④ボランティアについて理解する	「スポーツインテグリティとは」 「スポーツ指導者に求められる資質」 「障がい者スポーツ指導員の役割、心構え、視点」 「ボランティアの魅力、心得、留意点」 到達目標 ①インテグリティを脅かす要因について説明できる ②指導者に求められる資質について説明できる ③障がい者スポーツ指導員初級、中級、上級それぞれの役割について説明できる ④ボランティアの魅力、心得、留意点について説明できる	林 尚宜

2	前期	<p>「障がい者スポーツの意義と理念」</p> <p>一般目標</p> <p>①障がい者スポーツの意義について理解する</p> <p>②障がい者スポーツの理念について理解する</p>	<p>「障がい者スポーツの意義」</p> <p>「障がい者スポーツの理念」</p> <p>到達目標</p> <p>① 障がい者個人に対しての意義、スポーツ界に対しての意義、社会一般に対しての意義、それぞれの違いを説明できる</p> <p>② 障がい者スポーツの歴史やあり方について説明できる</p>	林 尚宜
3	前期	<p>「コミュニケーションスキルの基礎」</p> <p>一般目標</p> <p>①コミュニケーションとはなにか理解する</p> <p>②コミュニケーションの難しさについて理解する</p> <p>③コミュニケーションが取りにくくなってしまいう障がいについて理解する</p>	<p>「なぜ、いまコミュニケーション教育なのか」</p> <p>「コミュニケーションの余白に書き込まれていく自主性」</p> <p>「障がい者との具体的なやりとりを念頭に」</p> <p>「よりよいコミュニケーションのための演習」</p> <p>到達目標</p> <p>①コミュニケーション能力の必要性について説明できる</p> <p>②障がい者の方と円滑にコミュニケーションをとるうえで必要なスキル、留意点を説明できる</p>	林 尚宜
4	前期	<p>「障がい者スポーツに関する諸施策」</p> <p>一般目標</p> <p>①障がい者に関する諸施策の歴史について理解する</p> <p>②障がい者福祉施策について理解する</p>	<p>「我が国の障がい者福祉政策」</p> <p>「我が国の障がい者スポーツに関する施策」</p> <p>到達目標</p> <p>①我が国の障がい者に対する福祉施策にはどのようなものがあるのか、歴史の流れにあわせ説明できる</p> <p>③ 障がい者スポーツに関する施策はどのようなものがあるか、歴史の流れにあわせ説明できる</p>	林 尚宜
5	前期	<p>「障がい者スポーツ推進の取り組み」</p> <p>一般目標</p> <p>① 障がい者スポーツを推進するための各取り組みについて理解する</p>	<p>「各都府県・指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題」</p> <p>「日本障がい者スポーツ協会指導者制度の概要」</p> <p>「地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について」</p>	林 尚宜

		② 日本障がい者スポーツ指導員制度について理解する	「資格所得後の活動方法と情報入手方法」 到達目標 ① 各都道府県、指定都市における障がい者スポーツを推進するための取り組みについて説明できる ② 日本障がい者スポーツ協会指導員制度について説明できる ③ 資格取得後の活動方法について説明できる	
6	前期	「安全管理」 一般目標 ① スポーツにおける安全管理について理解する ② 安全を管理する上での留意点について理解する ③ ヒヤリ・ハットについて理解する	「スポーツ指導者の安全配置義務の心得」 「安全管理の留意点」 「ヒヤリ・ハット」 到達目標 ① 指導者の安全配置義務の心得について説明できる ② 安全を管理する上での留意点について説明できる ③ ヒヤリ・ハットとは何か説明できる	林 尚宜
7	前期	「全国障害者スポーツ大会の概要」 一般目標 ① 全国障害者スポーツ大会について理解する ② パラリンピックとの違いについて理解する	「大会の概要」 「競技規則の原則」 「障がい区分」 「実施競技」 到達目標 ① 全国障害者スポーツ大会の概要について説明できる ② 全国障害者スポーツ大会の各競技規則について説明できる ③ 実施競技にはなにがあるか説明できる	林 尚宜
8	前期	「障がいのある人との交流」 一般目標 ① 障がいのある人と交流することで日常生活における悩み、大変さを理解する	「障がい者との交流の必要性」 到達目標 ① 障がい者との交流の必要性について説明できる	林 尚宜
9	前期	「各障がいの理解1」 一般目標 ① 障がいの分類について理解する ② 障がいの変化について理解する	「障がいの分類」 「障がいの変化」 「高齢化と重度化」 到達目標 ① 障がいの分類と特徴について説明できる	林 尚宜

		③ 高齢化と重度化について理解する	② 歴史、時代における障がいの変化について説明できる ③ 高齢化による変化について説明できる	
10	前期	「各障がいの理解2」 一般目標 ① 各障がいの特徴について理解する ② 視覚障がいについて理解する ③ 聴覚障がいについて理解する ④ 内部障がいについて理解する	「障害の概要（身体障がい、脳血管障害、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい、精神障がい）」 到達目標 ① 各障がいの概要について説明できる ② 視覚障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる ③ 聴覚障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる ④ 各内部障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる	林 尚宜
11	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫1（レクリエーションボッチャ）」 一般目標 ① レクリエーションボッチャを例に挙げ、指導上の留意点と工夫について理解する	「障がいに応じたスポーツの工夫の基本的視点」 「各障がいに応じたスポーツの工夫の方法」 「障がいに応じたスポーツづくり」 到達目標 ① 障がいに応じたスポーツの工夫の方法について説明できる ② ボッチャの基本的なルールについて理解する	林 尚宜
12	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫2（レクリエーションボッチャ）」 一般目標 ① 実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	「基本ルールの理解と実践」 到達目標 ① ボッチャの基本ルールについて説明できる ② ボッチャを実践できる ③ ボッチャ競技の審判ができる ④ ボッチャ競技に対して指導ができる	林 尚宜
13	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫3（レクリエーションボッチャ）」 一般目標	「基本ルールの理解と実践」 ① ボッチャの基本ルールについて説明できる ② ボッチャを実践できる	林 尚宜

		① 実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	③ ボッチャ競技の審判ができる ④ ボッチャ競技に対して指導ができる	
14	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫4（レクリエーションボッチャ）」 一般目標 ① 実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	「基本ルールの理解と実践」 到達目標 ① ボッチャの基本ルールについて説明できる ② ボッチャを実践できる ③ ボッチャ競技の審判ができる ④ ボッチャ競技に対して指導ができる	林 尚宜
15	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫5（レクリエーションボッチャ）」 一般目標 ① 実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	「基本ルールの理解と実践」 到達目標 ① ボッチャの基本ルールについて説明できる ② ボッチャを実践できる ③ ボッチャ競技の審判ができる ④ ボッチャ競技に対して指導ができる	林 尚宜
成績評価方法		レポート課題（内容、文字数、構成、見栄えで採点） 授業態度が芳しくない場合は減点		
準備学習など		グループワークや演習課題にて積極的に発言・参加し、討論すること		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	地域理学療法学
担当者	宇治 太孝
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義，グループワーク
教科書・参考書	地域リハビリテーション学テキスト 地域理学療法ビジュアルテキスト

授業概要と目的	
<p>高齢化社会が進む日本において地域リハビリテーションの在り方が見直されている。今後は地域包括ケアシステムを展開していく中で、地域で活躍する理学療法士が必要になってくる。院内のリハビリから院外への理学療法士の関わりが増えてくる。そのため、本講義では理学療法の歴史、成り立ち、制度を学び、理解を深め、地域における理学療法士の役割を理解する。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<p>「地域リハビリテーションの考え方」</p> <p>一般目標</p> <p>⑤ 地域リハビリテーションの概要を理解する。</p> <p>⑥ 地域リハビリテーションに関わる理学療法士の役割を理解する。</p>	<p>「地域リハビリテーションの概念」</p> <p>到達目標</p> <p>⑤ 地域リハビリテーションの理念を説明できるようになる。</p> <p>⑥ 地域リハビリテーションの概要を説明できるようになる。</p> <p>⑦ 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
2	後期	<p>「制度の変遷」</p> <p>一般目標</p> <p>④ 地域リハビリテーションに関する制度を知ることの意義を理解する。</p> <p>⑤ 制度の変遷についての概要を理解する。</p>	<p>「地域リハビリテーションに関する制度の変遷」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 地域リハビリテーションに関する制度を知ることの意義を説明できるようになる。</p> <p>⑤ 制度の変遷についての概要を説明できるようになる。</p> <p>⑥ 制度の変遷について、年代ごとの特徴を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
3	後期	<p>「介護保険制度の概論」</p> <p>一般目標</p> <p>④ 介護保険制度の現状と今後について理解する。</p> <p>⑤ 介護保険制度の概要を理解する。</p> <p>⑥ 介護保険における理学療法士の関わり方や役割を理解する。</p>	<p>「介護保険制度の仕組み」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 介護保険制度の認定審査について説明できるようになる。</p> <p>⑤ 介護保険サービスの利用の流れについて説明できるようになる。</p> <p>⑥ 介護保険制度で取り扱う福祉用具について列挙できるようになる。</p> <p>⑦ 介護サービスにおける理学療法へのニーズを述べるようになる。</p>	宇治 太孝

			⑧ 地域包括支援センターの役割について述べることができる。	
4	後期	<p>「地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割」</p> <p>一般目標</p> <p>⑤ 地域包括ケアシステムについての概要を理解する。</p> <p>⑥ 地域包括ケアシステムの構築が進められている背景を理解する。</p> <p>⑦ 地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割を理解する。</p>	<p>「地域リハビリテーションにおけるリハビリテーション職の役割や期待」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 高齢者人口の増加が社会保障に及ぼす影響を述べるができる。</p> <p>⑤ 地域包括ケアシステムについて説明できるようになる。</p> <p>⑥ 地域包括ケアシステムにおける理学療法士への役割を述べるができる。</p> <p>⑦ 地域リハビリテーションに関わるリハビリテーション職に期待される役割を述べるができる。</p>	宇治 太孝
5	後期	<p>「地域支援事業のなかでの理学療法士の役割と地域リハビリテーションにおける関連職種」</p> <p>一般目標</p> <p>① 地域支援事業の概要を理解する。</p> <p>② 総合事業, 地域ケア会議推進事業, 在宅医療・介護連携推進事業の概要を理解する。</p> <p>③ 地域リハビリテーションにおける他職種との連携の意義について理解する。</p> <p>④ 連携する他職種の専門性について理解する。</p>	<p>「地域支援事業における理学療法士の役割と他職種との連携」</p> <p>到達目標</p> <p>③ 総合事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>④ 地域ケア会議推進事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>⑤ 在宅医療・介護連携推進事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>⑥ 地域リハビリテーションにおける他職種との連携の意義について説明できるようになる。</p> <p>⑦ 連携する他職種の専門性や実際の仕事内容について説明できるようになる。</p> <p>⑧ 理学療法士として専門性を発揮しながら, 他職種との相互理解を深めることができる。</p>	宇治 太孝
6	後期	<p>「介護保険サービス下での理学療法①」</p> <p>一般目標</p>	<p>「施設サービスにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>③ 介護老人保健施設の機能について説明できるようになる。</p>	宇治 太孝

		<p>④ 介護老人保健施設の機能と役割を理解する。</p> <p>⑤ 理学療法士の役割とチームアプローチを理解する。</p> <p>⑥ 特別養護老人ホームの機能を理解する。</p> <p>⑦ 特別養護老人ホームにかかわる理学療法士の役割を理解する。</p>	<p>④ リハビリテーションマネジメントについて説明できるようになる。</p> <p>⑤ 理学療法士の役割と業務内容がイメージできるようになる。</p> <p>⑥ 特別養護老人ホームの機能を説明できるようになる。</p> <p>⑦ 特別養護老人ホームに関わる理学療法士の役割を説明できるようになる。</p>	
7	後期	<p>「介護保険サービス下での理学療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>⑤ 訪問リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションの目的について理解する。</p>	<p>「訪問リハビリテーションにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 訪問リハビリテーションのサービス提供前の流れの 5 つ段階を説明できるようになる。</p> <p>⑤ 訪問リハビリテーションのサービス提供時の流れの 5 つ段階を説明できるようになる。</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションのサービス提供に必要な 5 つの専門技術を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
8	後期	<p>「介護保険サービス下での理学療法③」</p> <p>一般目標</p> <p>⑤ 通所リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>⑥ 通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。</p> <p>⑦ 通所介護が担う役割を理解する。</p>	<p>「居宅サービスにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 通所リハビリテーションの制度上の位置づけを説明できるようになる。</p> <p>⑤ リハビリテーションマネジメントを説明できるようになる。</p> <p>⑥ 通所リハビリテーション対象者と提供されるサービス内容について説明できるようになる。</p> <p>⑦ 通所介護で提供するサービスの特徴について説明できるようになる。</p> <p>⑧ 通所介護における理学療法士の役割を述べることができる。</p>	宇治 太孝
9	後期	<p>「介護予防と健康増進の概念」</p> <p>一般目標</p> <p>④ 介護予防の概念を理解する。</p> <p>⑤ 介護予防の効果的な取り組みを理解する。</p>	<p>「介護予防と健康増進の必要性」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 介護予防の概念を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝

		⑥ 健康増進の概念を理解する.	⑤ 介護予防の効果的な取り組みを説明できるようになる. ⑥ 健康増進の概念を説明できるようになる.	
10	後期	「介護予防・日常生活支援総合事業の実際」 一般目標 ④ これからの介護予防について基本的な考えを理解する. ⑤ 地域づくりとはどういったものか理解する.	「介護予防の取り組みやリハビリテーション専門職の役割」 到達目標 ④ 身近な地域の介護予防の取り組みを説明できるようになる. ⑤ 高齢者の活動・参加について説明できるようになる. ⑥ リハビリテーション専門職が地域づくりにどのように関わることができるのか説明できるようになる.	宇治 太孝
11	後期	「地域リハビリテーションのリスクマネジメント①」 一般目標 ④ 施設におけるリスクマネジメントの必要性について理解する.	「施設におけるリスクマネジメント」 到達目標 ③ 施設におけるリスクマネジメントの必要性について説明できるようになる. ④ 施設におけるリスクについて説明できるようになる.	宇治 太孝
12	後期	「地域リハビリテーションのリスクマネジメント②」 一般目標 ⑤ 訪問におけるリスクマネジメントの必要性について理解する.	「訪問におけるリスクマネジメント」 到達目標 ⑤ 訪問におけるリスクマネジメントの必要性について説明できるようになる. ⑥ 訪問におけるリスクについて説明できるようになる.	宇治 太孝
13	後期	「住環境整備①」 一般目標 ④ 理学療法における生活環境学の必要性を理解する. ⑤ 生活環境学に関連する制度について理解する. ⑥ 福祉用具に関連する制度について理解する.	「住宅改修と福祉用具の導入」 到達目標 ④ 生活環境学に関連する制度について説明できるようになる. ⑤ 障害者の生活継続のために適切な生活環境の整備をイメージできる. ⑥ 福祉用具に関連する制度について説明できるようになる. ⑦ 福祉用具の種類やその特徴について説明できるようになる.	宇治 太孝

			⑧ 障害者の身体・生活状況などの様々な要素配慮して適切な福祉用具が導入できる。	
14	後期	「住環境整備②」 一般目標 ③ 実際の現場で使用されている福祉用具について理解する。 ④ 手すりの設置方法について理解する。	「福祉用具の選定方法」 到達目標 ③ 実際の現場で使用されている福祉用具はどのようなものがあるのかを説明できるようになる。 ④ 実際の現場で使用されている福祉用具についての使用方法や用途について説明できるようになる。 ⑤ 手すりの設置方法について説明できるようになる。	宇治 太孝
15	後期	「住環境整備③」 一般目標 13, 14 で学んだ知識の理解度を確認する。	「住環境についての実際」 到達目標 ③ 疑似的に住環境整備を体験し、ポイントを説明できるようになる。 ④ 福祉用具を選定するまでのプロセスを述べることができる。 ⑤ 住宅改修を選定した理由について述べることができる。	宇治 太孝
成績評価方法		期末試験（100%）		
準備学習など		生活環境学と類似した項目があるため、復習をして臨んでください。		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	臨床実習Ⅱ（評価）
担当者	奥地伸城、小出悠介、辻智之、青木浩代、櫻井泰弘、林尚宜、熱尾有加、杵山哲平、宇治太孝
単位数（時間数）	3単位（135時間）
学習方法	実習（医療・介護施設における実習）
教科書・参考書	

授業概要と目的	
<p>2年次までに学んだ理学療法評価・検査を、臨床実習指導者のもとで実践し、実習指導者の指示を仰ぎながら、臨床現場でのより具体的な方法を身に着ける。また検査測定技術のみだけでなく、対象者の全体像を把握できるようにする。</p> <p>医療・介護施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
臨床実習 II	後期	<p>「臨床実習Ⅱ（評価）」</p> <p>一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 各臨床実習施設における理学療法および理学療法士の役割と機能を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択・実践する。 理学療法を学ぶ学生としての基本的態度を習得し、理学療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。 	<p>「臨床実習Ⅱ（評価）」</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 評価技法の選択ができる。 評価技法の実施をすることができる。 全体像を把握し問題点を抽出することができる。 評価中、安全性を確保できる。 適切に記録を書くことができる。 各種提出物が期限内に提出することができる。 記述・口頭での報告が適切にできる。 施設における部門の役割について理解することができる。 実習に対して意欲的・積極的に学習できる。 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 感情・情緒面で安定した態度をとれる。 目標達成を目指して意欲的に努力することができる。 対象者の人権を尊重できる。 守秘義務を守ることができる。 対象者との関係を成立させることができる。 緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。 	各専攻教員

成績評価方法	実習指導者によって実習到達目標に基づいた評価点と学内実施する実習前、実習後後評価の評価点を平均して合否を判定する。
準備学習など	臨床実習前には2年次までに学んだ内容全てについて復習するとともに、患者・利用者、施設の指導者など関係者すべてと円滑なコミュニケーションが取れるようにしておくこと。
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に指導者等に働きかけ、疑問や問題を解決すること。

学科・年	理学療法科 2年次
科目名	臨床実習セミナー I
担当者	奥地伸城、小出悠介、辻智之、青木浩代、櫻井泰弘、林尚宜、杵山哲平、宇治太孝、熱尾有加
単位数（時間数）	1単位（45時間）
学習方法	学内実習
教科書・参考書	

授業概要と目的
臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。そのため客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。医療・介護施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく

日	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標（SBOs）	担当者
1～3	後期	「オリエンテーション・臨床推論」 一般目標 1. 解剖学、生理学、運動学など臨床の基礎知識を理解する 2. 対象疾患の病態やリスクを理解し、適切な理学療法評価項目を選択することができる。 3. 対象疾患に対し、適切な理学療法評価・測定の基本的	「オリエンテーション・臨床推論」 到達目標 1. 解剖学、生理学、運動学の内容を説明できる 2. 対象疾患の評価項目が選択できる 3. 対象疾患に対する理学療法評価の実践方法を理解できる 4. 理学療法評価の結果をもとに、問題点や理学療法プログラム等を検討し、臨床推論について自分の考えを含めて記載できる	担当教員

		な流れを実践できるようになる。		
4～5	後期	「OSCE」 一般目標 1. 対象疾患に対する適切な理学療法評価項目を選択できる。 2. 対象に対する理学療法評価・検査を実施できる。	「OSCE」 到達目標 1. 対象疾患に対する適切な理学療法評価項目を選択できる。 2. 対象に対する理学療法評価・検査を実施できる。 3. リスクを考慮して評価・検査が実施できる。	担当教員
成績評価方法	基礎知識、専門知識（評価）確認テストと、OSCEでの点数を合算して判定する。			
準備学習など	2年次までに学んだ内容全てについて復習する。			
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に担当教員に働きかけ、疑問や問題を解決すること。			